

平成23年第7回糸魚川市議会定例会会議録 第5号

平成23年12月14日(水曜日)

議事日程第5号

平成23年12月14日(水曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村	聰君	2番	保坂	悟君
3番	斉木	勇君	4番	渡辺	重雄君
5番	古畑	浩一君	6番	後藤	善和君
7番	田中	立一君	8番	古川	昇君
9番	久保田	長門君	10番	保坂	良一君
11番	中村	実君	12番	大滝	豊君
13番	伊藤	文博君	14番	田原	実君
15番	吉岡	静夫君	16番	池田	達夫君
17番	五十嵐	健一郎君	18番	倉又	稔君
19番	高澤	公君	20番	樋口	英一君
21番	松尾	徹郎君	22番	野本	信行君
23番	斉藤	伸一君	24番	伊井澤	一郎君
25番	鈴木	勢子君	26番	新保	峰孝君

欠席議員 0名

+

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹	君	副	市	長	本間	政	一	君
総務部	長	田鹿	茂	樹	市	民	部	長	吉岡	正	史
産業部	長	酒井	良	尚	総	務	課	長	渡辺	辰	夫
企画財政課	長	斉藤	隆	一	能	生	事	務	所	長	久保田
青海事務所	長	扇山	和	博	市	民	課	長	竹之内		豊
環境生活課	長	渡辺		勇	福	祉	事	務	所	長	池亀
健康増進課	長	伊奈		晃	交	流	観	光	課	長	滝川
商工農林水産課	長	金子	裕	彦	建	設	課	長	串橋	秀	樹
都市整備課	長	金子	晴	彦	会	計	管	理	者	会	計
ガス水道局長		小林		忠	消	防	長		山口		明
教育	長	竹田	正	光	教	育	委	員	会	教	育
教育委員会	こども課	長	山崎	光	隆	君	教	育	委	員	会
教育委員会	文化振興課	長	小林		強	君	監	査	委	員	事
歴史民俗資料館	長	兼務					務	局	長	横	田
長者ヶ原考古館	長	兼務					靖	彦	君		

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武	夫	君	係	長	松木	靖	君
主	査	大西			学	君				

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

+

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、12番、大滝 豊議員、25番、鈴木勢子議員を指名いたします。

日程第2 . 一 般 質 問

議長（古畑浩一君）

次の日程に入ります前に、昨夜の火災について山口消防長より発言を求められておりますので、この際これを許可いたします。

山口消防長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

おはようございます。

昨夜発生いたしました火災についてご報告申し上げます。

昨日、12月13日の午後8時42分に、糸魚川地域根知地区東中地内の山田脩さん宅から出火いたし、住宅1棟が全焼いたしました。この家に住むひとり暮らしの70代男性が、行方不明になっております。

消防車両16台、消防職団員103名が出動し、約2時間後の午後10時30分に鎮火いたしましたが、焼け跡から1名のご遺体を発見いたしております。また、この消火活動で消防団員1名が軽傷を負っています。

火災の原因は、昨夜の段階では判明いたしておらず、本日、朝から調査を行っております。年末に向かい、また、寒さも厳しさを増す中、火気の取り扱い等に注意を呼びかけてきたところでありますけれど、大変残念な結果となってしまいました。今後も一層の火災予防の啓発に努めてまいります。

以上です。

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

おはようございます。

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

それでは、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、糸魚川版包括ケアシステム構想の取り組みについて。

2012年4月の介護保険制度改正が間近に迫って、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据えて、在宅を中心に中・重度者や、医療必要度の高い要介護者を支える仕組みを盛り込んでいます。同時並行で、新たな高齢者の住宅制度を創設し、地域で高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムの基盤整備を進める介護保険法改正の概要と動向がようやく見えてまいりました。

それで糸魚川市第5期介護保険事業計画案が11月11日、市民厚生常任委員会に提出され、介護保険料、現行の4,620円から1,230円アップの5,850円と示されてきました。

そこで具体的にお伺いいたします。

(1) 第5期介護保険事業計画について。

第5期計画期間の整備見込みの調査範囲と方法。

第4期計画の見込みの実績比較と積算根拠及び総括。

施設以外の給付費の上昇理由と今後の対応策。

保険料上昇の緩和策。

ア 財政安定化基金の取崩し。

イ サービス未利用者の増加人数の推移と今後。

(2) 高齢者の住まいの整備について。

特養の入所までの待機日数と入所指針・判定基準の見直し。

介護療養型医療施設の経過と推移及び今後の対策。

サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）・高齢者専用賃貸住宅（高専賃）・有料老人ホームなど各々の状態に適した住宅の提供。

(3) 医療と介護の連携の強化について。

救急専門医・看護師の確保。

介護人材の確保とサービスの質の向上。

ア 介護サポーターの養成及び自立支援専門員配置の現状と課題。

イ 認知症サポーターの現状とゲーゴルセラピー（心身機能プログラム）の導入について。

ウ 介護予防リハビリ・プログラムの充実による介護度改善・維持の取り組みについて。

2、地域新エネルギービジョンの推進について。

それぞれの議員からこの新エネルギー、再生エネルギーの質問が、大震災以来相次ぐ中、我々奴奈川クラブでは、山梨県小水電力のまち都留市を訪問しました。

市役所前を流れる家中川の木製下掛け水車の「元気くん1号」、その300メートル下流に「元気くん2号」を設置し、今年度また「元気くん3号」の建設を予定しておりました。昨年、小水電力サミットを開催し、ことしは、ちなみに黒部市で開催されたそうであります。常時、市役所やエコハウス、植物栽培施設の電力として、また、東京電力にも売電しておりました。それに市民委員会制度や、まちづくりのアイデアを市民提案してもらうなど、水エネルギー研究会では水流調査、高校の授業として水車のデータ収集など、学術連携が図られておりました。

また、つるのおんがえし債という住民参加型市場公募債を活用し、市民発電所の建設に役立てられておりました。

そこで糸魚川市の取り組みについて、具体的にお伺いします。

(1) 小水力・マイクロ発電、マイクロ風力発電、温泉地熱発電、雪エネルギー等の導入プロジ

ェクトの取り組みについて。

- (2) 市民グループ等学術機関との連携。
- (3) 住民参加型市場公募債の活用やグリーン電力証書の発行の取り組みについて。
- (4) 再生エネルギーに係る市内企業の技術的参画への支援と発電整備に係る立地支援の状況。
- (5) ジオパークと連携した魅力あるまちづくりとの融合。
- (6) 環境をテーマにした産業振興。

以上、第1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

ご質問の地域包括ケアシステムは、高齢者が要介護状態になっても、住みなれた地域に継続して生活できるようにサービスを提供していく考え方で、現在、策定中の第5期介護保険事業計画、高齢者福祉計画において位置づけるものであります。

1番目の1点目の1つ目につきましては、要介護、要支援認定者1,500人を対象とした郵送による調査、及びケアマネージャー等57名に対する調査を実施いたしましたところであります。

2つ目につきましては、給付実施額が計画値を4%程度上回る見込みであり、特定健診、保健指導、介護予防事業の充実が重要であると感じており、実績がまとまり次第、介護保険事業計画策定委員会に諮ることといたしております。

3つ目につきましては、在宅サービスを利用する認定者が増加していること、及び1人当たりのサービス利用量が増加していることが原因であります。

対応策といたしまして、今後も継続して介護予防事業を実施し、要介護認定者の増加を抑制することが必要であると考えております。

3つ目のアにつきましては、新潟県においては基金の活用率が他の都道府県より高く、保険料上昇の緩和に充てることができないとのことであります。

イにつきましては、今年4月現在でサービス未利用者は581人ですが、今後、高齢化の進展に伴い少なくなると考えております。

2点目の1つ目につきましては、介護の必要度、家庭での介護力等の判定基準により入所決定をいたしており、現在のところ判定基準の見直しは考えておりません。

2つ目につきましては、介護療養型医療施設の廃止は29年度末に延長されており、現在、市外の施設に15名程度のサービス利用者がおられます。今後は介護療養型医療施設から、介護老人保健施設や医療療養病床等の転換がなされるものと考えております。

3つ目につきましては、住まいの1つの選択肢といたしまして考えられますが、家賃負担などの課題もあります。

3点目の1つ目、救急専門医の確保は糸魚川総合病院においては常勤医師と、富山大学からの非常勤医師等の派遣で対応いたしておりますが、大変厳しい状況であります。

次に、看護師の確保は、医療技術者修学資金貸与事業の見直しや、新年度に向けて看護師として市内病院へ就職をする方への就職助成事業などを検討してまいります。

3点目の2つ目につきましては、アの介護サポーター養成につきましては実施いたしておりませんが、特に孤立しやすい男性介護者の支援のため、男の介護講座を実施いたしております。

また、自立支援専門員につきましては、県内の7エリアの基幹社会福祉協議会に配置されております。上越地域は、上越市社会福祉協議会に3名の専門員がおり、当市では現在8名の方が、この制度を利用いたしております。

イにつきましては、認知症サポーターの養成を20年から実施いたしており、認知症ご本人や家族を地域で支えるサポーターとして考えております。また、ゲーゴルセラピーにつきましては、今後、情報収集してまいりたいと考えております。

ウにつきましては、通所介護、短期入所、生活介護等の事業所でレクリエーション、軽い体操、塗り絵、洗濯物の畳みなどの実施により、日常生活の維持、向上に取り組んでおります。

2番目の1点目につきましては、現状では採算性や安定稼働などの課題がありますが、国や企業の新エネルギー等への取り組み動向を把握する中で、普及に努めてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、大学等学術機関との連携した新エネルギーに関する情報提供につきましては、意見交換の場などを設けながら、市民が取り組みやすい環境整備をするよう努めてまいりたいと考えております。

3点目につきましては、他自治体等の取り組み状況などを情報収集しながら、導入可能については検討していききたいと考えております。

4点目につきましては、市内企業の技術開発における産官学の連携を、また、見本市出展助成や異業種の連携を通じた商談などを支援し、促進をしてまいりたいと思っております。

また、発電設備のこの立地に関しては、民間企業の立地事案に応じて、国、県の優遇策を紹介しながら、立地を支援していききたいと考えております。

5点目につきましては、ジオパークを活用して環境に配慮いたしたまちづくりを目指し、市民意識の向上と地域振興を促進してまいります。

6点目につきましては、エコな社会活動やエコの思想普及拡大に取り組んでいる企業に対して、支援をしてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

訂正をさせていただいて、おわびを申し上げたいと思っております。

地域包括ケアシステムの中で、「4つ」目のアを「3つ」目と言いましたので、「3つ」と言ったところを「4つ」目に変えていただきたいと思います。失礼いたしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

まず、介護保険事業計画第4期の見込み、これは11月11日の市民厚生でなかなか数字を求められても発表できないで、1月に開催されるということなんです。第4期の計画を見ますと、地

域密着型介護老人福祉施設並びに短期入所生活介護、認知症対応型共同生活介護、それと小規模多機能型が、計画よりこの第4期は多くやられるように思われるんですが、それがかなり23年度から5期に向かう24年度に、施設以外の給付費の上昇に当たっているのではないかと。この辺どう考えているか。計画見込み違いなのか、計画修正だったのか、その辺を教えていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

第4期、いわゆる現在の計画期間でございますが、計画よりも若干ふえているということございまして、時々状況によりましてニーズが高くなっている場合につきましては、計画よりも伸びるわけでございますが、特に短期入所、これが21床、今期ふえて。あるいは、小規模多機能型の居宅介護事業ということで、その施設も需要が前々からあったわけでございますが、特に参入業者の、建設業者の出現ということで、それらに対応できたということございまして、特に、こういう小規模多機能ということで、在宅に近いところの施設整備というものは、これからもふえてまいりますし、今、一番求められている施設でございます。これらが第4期のいわゆる後半のほうで、出てまいったということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺の数字が、かなりふえてる。認知症対応型共同生活介護、これがまた新潟県と比較したら15.6%とか、地域密着型介護老人福祉施設が21.1%とか、短期入所生活介護が11.1%とか、かなり県を100とした施設整備率として多くなっているんですね、上越も含めて考えれば。この辺を今後見ていくと、第5期の保険料に反映していくと思うんですが、その辺の原因の大体の人数がわかれば、教えていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

第4期で整備した人数、あるいは5期の計画でございますが、短期入所が21床、あるいは小規模多機能の居宅介護事業所が25床増ということでございます。

それから今期、第5期の計画につきましては、小規模多機能型の居宅介護については、さらに50床ふやさなきゃならんという計画でございます。それから短期入所につきましても同様、これからはまた必要に応じてふえてまいります予定でございます。これらの原因といたしましては要介護者の増、あるいはサービスの利用がふえてきたということが主な理由でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで施設以外の給付費の上昇が、23年度が29億5,000万円、24年度が35億3,000万円、5億8,000万円ですか、この辺が上昇してるんですね。やっぱりこの施設を多く建設したのも含めて介護度5の方が多くなったり、サービス利用者がふえたり、先ほどありましたサービス未利用者が、また使い出したとかいろいろあるんですが、やっぱりこれ一番の原因はどこに帰るんですかね、6億円近くふえている原因、その辺、分析してありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

今期、第4期の後半でございますが、23年度中に施設整備したものが多くございます。その影響で第5期の介護度の影響が大きくなってまいりまして、24年度からの介護給付費がふえるということでございます。

この内訳なんですけど、23年度に整備しましたものとしましてグループホーム45床増、それから小規模多機能の施設が25床、ショートステイ21床ということで、この第4期の後半で施設整備が進んだというのが原因でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで前に質問ございましたが、寝たきりにしないで、即、リハビリ、介護予防も含めて、その辺のプログラムがどうなっているのか。今、高齢者住宅のほうにも絡んでいくんですが、施設ばかりつくればいいってもんでない、金がかかる。そこで今度出てきた、先ほどありましたサ高住、これが国交省と厚生労働省が融合した取り組みですが、このサ高住について、今後、糸魚川市としてどう取り組まれるか、教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答え申し上げます。

サ高住、いわゆるサービスつきの高齢者向け住宅でございますが、高齢者専用賃貸住宅と同様、この国の施策を反映して、都市部を中心にしまして近年建設されております。しかしながら、この新潟県内でも中央部のほうは進んでいるわけでございますが、この糸魚川市内では、まだこれからというところでございます。

これはサービスつきということでございますので、高齢者のこれからの住まいにつきましては、

必要が求められるのかなと思いますけども、ただ、糸魚川市内は割と持ち家、あるいはこのようなご自身の家で住んでおられるという形が多いもんですから、なかなか今後のこのサービスつきの高齢者向け住宅の普及というのは、どれだけ進展するのかというのは、ちょっとわかりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

待機者が615人ですか、その中で要介護度4・5の人が119名ですか、在宅でサービスを受けられている方、それが緊急に対応せなあかんと。だけどその受け皿がないということで、先ほど申し上げましたように、介護保険制度が変わってサービスつき高齢者向け住宅、これが高専賃とかいろいろな形で統合されてサ高住になったんですが、これは本当に都会ではどんどん取り入れられて、ローコスト、ロープライス家賃でできるような形で、田舎でもできるような形が出ておりますが、そういうのもやっぱり社会福祉法人だけでなく医療法人、並びに企業でも取り組んでいるところがありますが、北信越圏内でもかなりやっているとあります。そういうところとタイアップしてどう結びつけていくか、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

サービスつきの住宅、いよいよ今後はこういう地域でも進んでくるのかなと思っております。

業者もおいでいただきまして、いろいろとお話を聞かせてもらっております。今後につきましては、行政のほうでご支援のできるものについては、そのように進めさせてもらいたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私も3月議会で取り上げさせてもらって、本間副市長から、「この高齢者住宅、検討する余地があるだろうと思っておりますし、また、民間の力というものもいろんな角度から話し合いながら、検討させていただきたいというふうに思っております。」と答えておりますし、11月9日に建設産業常任委員会でも私が申し上げさせてもらいましたが、やっぱり企業をまた元気にしてもらおうということになれば、この辺も必要になってくると思うんですが、どう検討されて、どう生かそうとしているのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

ひとり暮らし、あるいは高齢世帯がふえる中で、やっぱり介護が当然かかるということで、住宅の中で、やっぱり自分の地域、あるいは住宅を構える中で、介護の分野をその中でカバーしようということでの制度だということで、市内でもそれらを踏まえたアパートといいますか、住宅を整備した、検討したところもありまして、やはりそういうところの民間の力を借りて整備をして、在宅福祉のほうを充実できないかということでの取り組みを、お話をさせていただいたわけですので、やはり国の補助等があるわけですので、それらによって施設介護に頼らないサービスができるということでは、そういうこともやっぱり行政の中では進めていかなきゃいけないということのお話をさせてもらっていますので、また、いろんな角度からそういうご要望、また、住宅等を持って方もおられるわけですので、それらの方の変更した活用ということも、市のほうでもまた手助けをしていくということが、ベターかなというふうに考えることで、そのような話をさせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで介護療養型が老健に移行される方向で、ほかに介護療養型、富山ですか、そっちのほうへ行ってる方が十何人かおられる。この介護保険の改正で、老健施設が本来の在宅復帰施設としての機能をより強化に、在宅復帰の施設、ある程度期間を切られる。地域のリハビリ拠点としての機能を強化したいということが、介護保険改正で出てきてるんですね。出されれば行くところなくなって、また在宅に戻ったりいろいろな形で、法改正、これがいいとか悪いとかでなく、そうやってきつつある。在宅におってもサービスを全部使えないと。今また出てきとるのが24時間対応、この辺はどう今後取り組もうとしているのか。法改正が4月に始まって、事業者関係はそれで間に合うのかどうか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

介護療養型の医療施設につきましては、平成29年にこの制度が終わります。かつて青海病院が老人保健施設に切りかわったということで、管内ではそのように切りかえをしております。したがって、市内にはこのような施設がないわけですが、市外の施設利用ということで、上越をはじめ市外でこのような施設利用をされながら、生活されている方が大勢ございます。

今後ということでございますけども、24時間対応ということでは、施設以外では在宅の介護がどのようにして進むかということで、例えば訪問介護等の需要がこれから伸びるんじゃないかなということでございますが、その需要の数、あるいは対応する事業所の内容によりまして、今後のサービス需要が出てくるのかなというふうな考え方があります。これは第5期の計画の中で、検討してまいりたいということで今進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

居宅系サービスの中で、今言いました24時間訪問サービスを取り入れていくと。それと複合型サービスを取り入れていくということで、中・重度者や医療ニーズの高い要介護者向けの在宅介護サービスを強化していくと。それで独居や老老世帯でも、在宅生活を可能にしたいということを行うたっております。これ事業者は今度は間に合うんですか。いろいろな形で聞いていくとまだまだ、時間はもうそんなにないんですが、サービスを受けたい方がおるかどうかも含めて、その辺、分析されて、行政から指導とか、そのようなのをやっておられるのかどうか、教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

それらの方々が、どれだけこれから出てくるかといいますか、そのような必要が出てくるかということにつきましては、今のところ未定でございますけども、第5期の期間中にそういう状況になりましたら、対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで我々奴奈川クラブで11月23日に、神奈川県湘南のほうのサービスつき高齢者向け住宅、今まだ高専賃なんですけど、その申請を予定されているレジデンスタウン平塚やさかということで、これが自立型のシニア住宅、それで介護向けのサ高住というか、介護つきの高専賃、そうなれば介護保険を使うんですが、こういう自立型も含めて、ありとあらゆる形で企業がやっておられる。聞くと保険料は、そっちのほうでは高いそうなんですけど、糸魚川市も含めて上越も高いんですが、6,000円近くになると、ある程度施設は制限せないかんですが、この5期に向けて先ほど答弁ありましたように企業だとか医療法人、社会福祉法人にはかなり聞いてやってると思うんですが、その辺、土地資産家のオーナーとか、いろいろな土地を持ってる方々に聞いたり不動産業者、それと今、ホーム運営事業者。特養とか老健だとかは線を引かれると思うんですね。そうではなく第5期に向けて、こういう事業者と集まりながら、勉強会を開きながら、いろいろな形でこういう住宅も含めて研究会なりプロジェクトなり、いろいろな形でできるんじゃないかと。法改正もサ高住に移ったのが10月20日でございます、改正されて移ってるんですね。国からは、かなりでかい325億円がついてる。そういうチャンスを全部いっぱいふやせというのではないんですけど、やっぱり限度の保険料があると思うんですが、それなりにやっぱり議論を交わしながら行う必要が、今、出てきてるのではないかと、こう思っているんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

お答えしたいと思います。

今、第5期に向けて、このようなサービスの住宅をとという発言でございますが、確かにいろいろな国の制度ができてはおります。ただ、私どもは時間的に第5期の介護に向けては、なかなか難しいと思っています。その次のところで、やはり今ほど申されたように施設というものは、非常に費用がかかるものでございますので、こういったサービスについて将来的に、やっぱり検討していかなくちゃならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私は3月にもう言うているんですよ。それから検討してきましたか、第5期に向けて、そういう企業やチャレンジして、折衝してきました。これ私、企業誘致だと思うんですよ。そういう形では、ここ3月からいろいろと取り組んできたのかどうか、その辺、教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

高齢者のこれからの住まいの1つということで、なかなか施設整備が行き届かない中で、あるいは枠のある中で、これらの新しい形態の住まいといいますか、それらの整備がこれから進んでいくものと思っております。

私どもとしましては、今、事業所の方々がおいでになったのを契機に話を聞きながら、今後の事業計画等に反映していきたいということでございまして、それらのことにつきましては相談を受けたり、あるいはその対応のために勉強しとるという状況でございます。

議長（古畑浩一君）

企業誘致という観点の中で、検討されてきたかということについての答弁を願います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

企業誘致、あるいは企業のいろんな経営上の相談という中では業種を問わず、いろんなご相談がございます。それぞれの状況に応じて対応いたしておりますけれども、当商工農林水産課といたしましては、今、五十嵐議員から言われたような案件について、具体的に企業誘致というような動きでは取り組んでおりません。

ただ、高齢者の住宅という状況の中で民間の企業の方、あるいはそういう不動産をお持ちの方等

で、そのような取り組みをされていくというものについてのPRということについては、市を挙げて取り組んでいく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで9月の決算ですか、住宅費の中で政策空き家、西山住宅と横町住宅、外波住宅、これは老朽化されて、今、募集していない状況で、取り壊しの方向ということでありまして、民間のアパートが糸魚川市は非常に多い状況ということでありまして、今、市営住宅、県営住宅を含めて民間のアパート、それらを誘致企業から聞いて、高齢者向け住宅とかいろいろな形で今度はできると思うんですわ。その辺のヒアリングだとか、進めていくつもりはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今までいろんな施策の中においても、そういう高齢者住宅をやってきた感があるんですが、なかなか糸魚川の地域になじまなかった部分があるわけでありまして。

しかし今、議員ご指摘のとおり、高齢者に対して何のサービスができるのか、何が魅力あるか、そういったところをやはり他の地域にないものでも、糸魚川の高齢者にやはり特筆するものがあるんだらうと思いますので、そういったところもあわせてできないかという検討。そして、それは今ほど、またこれも議員ご指摘いただいておりますが、行政間だけの連携ではなくて、今、企業の皆様方の中で、そういう提供できるところがあるかないか、そんなところも含めながら。ただ、どうしても行政で検討している中においては、踏み出せないところがあるのかもしれないので、そういったところを一步前へ出て、検討させていただきたいなと思います。

やはり今までの経験や実績の中では、なかなかうまくいかなかったというところで、少し出れなかった部分があるので、5期とかそういう枠でなくて、今、待機者にどうしても対応しなくちゃいけない中においては、120名程度の対応をしなくちゃいけない。そしてまた施設を希望される方が600人程度おるわけでございますので、そういったところを考えながら、やらなくてははいけないと思っております。

しかし、それはまた議員もご指摘いただいている部分であるわけでございますが、負担がふえたんでは意味のない話であるわけございまして、最終的には、その軽減につながるやはり施策にもっていかなくちゃいけないんだらうと思っております。今言ったように待機者の対応もしなくちゃいけないんですが、これは負担減にはつながっていかないんだらうと思っております。一時的には、ふえていく可能性もありますが、しかし、それも最終的には減に向かっていく形で、整えていかなくちゃいけないんだらうというのを、これから検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう方向でお願いしたいと思いますし、高専賃とか、それが指定されて特定施設という名前になるんですが、それが適合高専賃、今度、適合サ高住になるかどうかわかりませんが、これは県が指定、監督を行うサービス。それが介護サービスとか介護予防サービスが出てきております、これは県が指定なんですよね。市が指定なのは認知症とか地域密着、その辺なんですけど、県が指定。県はおくれているんですよね、その辺の高齢者の居住計画の中に、あんまり新潟県自体も熱心でないんで、その辺も含めて県とも連携して取り組んでいただきたい。

それとやっぱり先ほどありましたように特定施設で、今、上越へ行ったり富山へ行ったりとか、こっちから流れてきて、糸魚川市から介護保険料を払っているんですよね。逆に、糸魚川市に呼び込む、呼んでもらって払ってもらう形も今できると思うんですわ。糸魚川市の申込者を優先しなければなりませんけど、その辺も含めてぜひ検討していただきたいと、こう思っております。その辺、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先ほどもちょっと申し上げたんですけども、なかなか私どもも調査が進んでいない状況は、先ほど申し上げたとおりです。そういった中で、先ほど私ども福祉部門、あるいは企業誘致の企業支援室部門、そういった中で、今後いろいろ調査はしていかなきゃならないと思っております。

ただ、先ほど市長が申し上げましたように持ち家が非常に多くて、そこに住んでいて、今のところ、そういったサービスつき住宅というものになかなかなじみがないという実態もあります。そういった中で、やはり先ほど申し上げましたように、少し時間はかかりますが、いろいろな調査を進めていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

6期に向けてじゃなくて、私は早目に検討する余地はあると思うんですわ。ぜひ即対応していただきたいと思います。

それでやっぱり介護保険料を軽減するためにも、介護予防、リハビリプログラム、この充実を図っていかねばならない。介護度3以下の方でも、介護度を認定された方でも山口県の取り組み、夢のみずうみ村というのをデイサービスをやっておるんですが、いろいろな形のプログラムをやられてるところがございまして、パンづくりだとかメニューが豊富なんですよね。海で釣りのリハビリ、環境プログラム、バリアフリーではなくバリアアリーなんですよね。余計に階段をつくって、バリアフリーでなくてバリアアリー、階段をわざわざつくるそうなんですよね。それでプログラムが100以上あるところでデイサービスを行っている。私は何か利用できるのが、すごいあると思うんですよね。

そのデイサービスで使う施設内通貨、通貨の名前が「YUME」ですけど、施設内通貨を利用して、それでいろいろな形で銀行もあったり、貸し借り、利子とかも含めて、いろいろな形で独自に頭も使える、いろいろな形でやっているところがございます。ぜひその辺も参考にして、先ほどありましたゲーゴルセラピー、これも指の感覚だとかいろいろな形でやってる。精神科の専門の方がやったり、そういう形もぜひ寝たきりにならない、やっぱり介護度状態が悪くなる、ならないような工夫を行政だけでなく、市民全体で認知症にならない形をぜひとっていただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに私も考えますと、そういうところだろうと思っております。いろんな先ほどサービスと言いましたが、当然リハビリ等もあるでしょうし、そしてやはり日常生活が周辺にないためなわけでありまして、ただ施設の中に入っていけばいいということではなくて、そういった施設であっても、日常生活と変わらない生活が送れるような形をつくらないけないだろう。

例えばその中において、多少の就労もあってもいいと思うわけでありまして、例えば封筒を張るとか、また手作業で少し何かをやるとか、そしてまた農作業も多少できるとか、いろいろなものが工夫できるわけですし、商行為もあってもいいと思うわけでありまして、あめ玉とかいろいろな商いをする中で、日ごろの生活がそこで感じられるような、まちという形の1つの小規模なものがあってもいいだろうと私も思っておるわけでありまして。

そのようなことを、今、農業なり、企業の6次化と同じような形の中で、多面的な対応ができるようなシステムみたいなものが必要になってくるんだろうと。小規模でできるのか、大規模にしないか、ちやいけいかと、そういうものはあるだろうと思えますし、当市内でどのようなことが出せるのか。なるべく多くのものが、そこにつけ加えられるようなものが望まれるだろうと思うわけでありまして、今、議員ご意見の中で、いろいろ提案いただいておりますが、なるべくそういったところを踏まえて、今、どうしても老人対応となりますと、福祉事務所だけで対応することが多いわけでありまして、市内全体でそういったところを回っていけるように少し検討するように、枠を少し広げながら対応していけばいいかなと私は思っておりますので、そのような形で少し進めてまいりたいと私は思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

市長が言われて、ありがとうございました。

そこで糸魚川版包括ケアシステム構想になってくるんです。糸魚川市全体、中学校が4つあって、各中学校区圏内を基本にして、自立期のアクティブライフスタイルを中心に、介護期から終末期まで継続したケアが受けられる高齢者専用のコミュニティセンター方式。やっぱりその辺の中学校区

ぐらいでぜひ、能生地区でもかなりそういう形で、今、看護大の先生を呼んでやったりとか、そういう谷々とかゾーン別、ぜひ医者を中心にいろいろな形で、その辺を住民も含めてやっていくような地域包括ケアシステムづくりをぜひお願いしたい。そこにも高齢者住宅も入っていける、近くに介護つきのが、離れていけば自立型、そういう形もぜひお願いしたい。

それと施設見学させてもらって温泉設備もあるんですが、やっぱり小さいプールがありましたね、歩く温水プール、ウォーキングできるプール。そんなにでかくないんですが、やっぱり小さいのもその施設の中であって、雨でも雪でも入れるような施設、やっぱりそういうのも必要だと思うんですわ。健康も含めて、健診受診率も高めなくてはならない。そうなってくるとやっぱり健康福祉センターに、その辺も含めて中心になるのはあそこだと思うんですが、そこにやっぱり温水でなくても、ある程度そういう活用をぜひ実現していただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ほど私が前段でお答えいたしましたわけですが、それにプラス医師ということなんですが、医師ということになってくると、ちょっとまたハードルが高いかなと思うわけですが、しかし、在宅介護を目指すには、やはり医療機関がどうあるべきかというのを、どうしてもやはり確立していかなければいけないんだろうと思っております。

そういう中で、どのような位置づけになるのか、1つの枠の中に入れていいのか、逆に、また1つのキーポイントして位置づけしながら連携をとっていくのがいいのかとか、いろいろな考え方ができるわけですが、幸いにして、今、国保診療所の医師が入っていただいて、地域医療もというお考えを持っていただいているわけですので、そういったところをご相談をさせていただきながら、また知恵をいただきながら、そんなところも想定しながら進めていきたいなと思っております。

ただ、本当に医師に関しては、なかなか厳しい状況でございまして、それをどのように位置づけするのかというのは、大きな課題だろうと思うわけですが、今言ったような形の中で進めてやってみたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

国保診療所だけでなく、各地域に医師がいらっしゃいます。その医療法人と一緒に医療型高専賃や医療型サ高住もあります。ぜひそういうのも含めて、各地域、地域でケアシステム構想みたいなのを4つぐらい、4つか幾つかになるかわかりませんが、そういう方向でぜひ検討していただきたい、こう思います。

時間がございませんが、水力発電、今、中川原新田並びにヒスイ峡の辺でやってるといふ、その辺を具体的に教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

ヒスイ峡については、今年度工事を行って、小水力で電力を賄うというような形をとらせてもらっております。

中川原用水については今年度、一応、県の事業、小水力導入に関する簡易調査支援事業というものに手を挙げまして対象となり、11月30日に現地調査を行って、どのぐらいの電力確保ができるのかというような調査を行っております。結果については、また1月過ぎてからになるというようにお聞きしておりますので、動きとしては現在そのようなものであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

水量調査だとか、いろいろな形でやっとなかと思うんですが、今度は勉強会ということで、専門家とか市民グループとか、先ほどあった大学だとか高校、企業とかの連携を図って勉強会をするのか、教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

勉強会については来年度、一応セミナー的なものを小水力、それからバイナリー、それから太陽光発電等を、セミナー的なものを開催したいというふうに、今のところ予定をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そういうのに雪エネルギーも入れてくださいよ。平成15年の調査では、雪に二重丸がついているんですね。この雪、大雪になるかどうかわかりませんが、その利用もお願いしたい。

それと鹿児島県の薩摩川内市では、新エネルギー対策監、新エネルギー対策課とか、いろいろな形で新エネルギー独自の課を設けたりプロジェクトチーム、そういう考えはないのでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

+

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

現在のところ、今の担当課で十分であるととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

今、新潟工科大学でもこのマイクログリッド、小規模電力供給網という、風力、太陽光、バイオ、ディーゼル燃料とか、いろいろな蓄電池による組み合わせだとか用水、温泉水など、いろいろな形が出てきております。ぜひその辺も含めて、産業振興にもつながるようにお願いしたいと思って、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を11時10分といたします。

午前11時01分 休憩

+

午前11時10分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。〔21番 松尾徹郎君登壇〕

21番（松尾徹郎君）

おはようございます。

1、糸魚川市総合計画後期基本計画について質問いたします。

この後期基本計画は、平成24年度から28年度までの5年間の事業計画であり、今後の糸魚川市の方向性を示す、極めて重要な将来設計であると考えます。

後期基本計画では、公共施設の耐震化を始めとした改修、及び新幹線開業に向けての駅周辺整備、また、ジオパーク関連推進事業や高齢化に対応するための施策など、各分野において数多くの整備が検討されています。

しかし、国の財政危機、また最近の経済状況による税収減、あるいは3月11日に発生した東日本大震災における災害復旧などを考慮しますと、今までのような国からの財政支援は期待できず、

+

ますます厳しいものになることが予想されます。

現在、国では消費税をはじめとした増税論議、また、年金、医療、介護といった税と社会保障の一体改革など、本格的な財政再建に向け動き出そうとしています。当然、そこには地方交付税改革をはじめ各省庁における補助金の整理、統合を含めた見直しなどが考えられ、地方自治体にとりましては、ますます厳しい時代を迎えようとしています。

したがいまして、特に自主財源の乏しい当市にとりまして、今後の行財政運営においては、今まで以上にしっかりとした将来推計のもと、各種事業における選択と集中を心掛けなければなりません。

地域経済、産業発展はもちろんのこと、ますます進む少子高齢化の対応、あるいはジオパーク世界認定を、今後、地域発展のためにどのように生かすのか。時代の変革期に当たるだけに、大変重要な時期に差しかかっていると思います。

そこで、近日中に発表されます、平成24年度から28年度までの5年間における重点事業、並びに各分野における事業計画と優先順位、さらには概算事業費について、市長並びに行政側の考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

松尾議員のご質問にお答えいたします。

後期基本計画につきましては6つに区分をいたしておりますので、重点事項を含めその分野ごとに説明をさせていただきます。

1つ目の健康福祉分野では、より重症な患者を受け入れられることのできるようにするため、糸魚川総合病院の救急外来棟の整備に対する助成をはじめ、救急医療の充実や介護給付費及び医療費の増加傾向に歯どめをかけるため、疾病の早期発見・早期治療に努めるとともに、健康づくりを進めてまいります。

2つ目の教育分野では、日本一の子どもづくりに向けて、子ども一貫教育方針に基づいた教育活動を、家庭・地域・園・学校が連携協力して推進するとともに、児童生徒の安全で快適な教育環境を確保するため、学校、保育園等の耐震化を含めた施設整備を進めてまいります。

また、社会教育を中心に、地域づくり活動や地域コミュニティ活動等に幅広く取り組む新しい公民館制度の構築や、市民会館、フォッサマグナミュージアムのリニューアル、能生体育館の改築に取り組めます。

3つ目の生活基盤分野では、26年度末の北陸新幹線開業に向けて新幹線駅舎や周辺の整備を進めるとともに、中央大通り線の国道148号への接続や、国道8号糸魚川東バイパスなどの幹線交通網の整備を進めてまいります。

また、橋りょうの長寿命化計画を策定し、修繕費の平準化とコスト縮減に取り組んでまいります。

4つ目の産業分野では、働きやすい労働環境づくりに努めるとともに、見本市等の出展助成や、地域の各産業が持つ資源の技術を有効に結びつけ、新たな商品サービス、地域ブランドの創出に向けた取り組みを進めてまいります。

また、交流人口の拡大を図るため新幹線開業を好機ととらえ、交流人口拡大プランのジオパーク戦略プランに基づき、民間事業者等の協力を得ながら取り組んでまいりたいと思っております。

5つ目の生活環境分野では、一般廃棄物及び産業廃棄物最終処分場の適正化や、新たなごみ処理施設の検討を進めるとともに、東日本大震災後のエネルギー事情や地球温暖化を踏まえ、新エネルギーの取り組みを進めてまいります。

また、国策によるアナログ波からデジタル波移行に伴う防災行政無線や消防団無線、消防救急無線のデジタル化に向けた取り組みを進めてまいります。

6つ目の地域づくり自治分野では、地域づくりビジョンで定めた地区の将来像の実現に向けた地域づくりプランの策定や、地域住民の自主的、主体的な取り組みに対する活動支援を行ってまいります。

なお、総合計画後期基本計画に掲載いたしております主要事業につきましては、毎年度、中期財政見通しを作成し、実施計画や予算査定の段階で優先度、貢献度等を踏まえながら、事業化をいたしているところであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

ありがとうございました。

それでは再質問に入りますが、初めに各分野に入ります前に、平成24年度から28年までの5年間、これは一般会計だけを見た場合、単年度で平均260億円、そして歳入では地方交付税を80億円というふうに見てるわけですが、先ほども申し上げましたが、本格的な財政改革が始まるとすれば、地方交付税の80億円は、樂觀し過ぎるのではないかなというふうにまず思います。

それから歳出のほうでは、借金のほうが48億円、単年度で、そしていわゆる投資的経費、費用といえますか公共投資ですね、これは平均わずか40億円というふうになります。施設整備に充てる場所の投資的経費が40億円となると、市民要望にこたえることができるだけの公共投資が果たしてできるのか、非常に不安になるわけですが、この点についてどのようにお考えか、まず財政課長にお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

ご質問の地方交付税のほうから、お答えをさせていただきたいと思っております。

後期基本計画、5カ年でありますけれども、今、平均で地方交付税80億円ということで見えております。これはご承知のように地方交付税につきましては、特に合併10年後の減少、いわゆる3本算定から1本算定に移っていく。これは一挙に移るということでなくて5カ年で、0.9、0.7、0.5、0.3、0.1と減少して、平成32年には、いわゆる1本算定が本算定になるとい

うことであります。

今ほどの80億円というのは、あくまでも5カ年の平均ということでありますので、毎年80億円ということでなくて、例えば24年度については91億円を予定している。いずれにしても下がっていくということは、間違いなことではありませんけれども、ただ、平成26年度まで、いわゆる合併10カ年の中で、松尾議員のご質問の中でしていただいている大型公共事業をはじめ耐震化も含めた、そういった大きな事業が26年度までに山積みという状態でもあります。

計画的な事業執行の中で、26年度まではどうしても事業費が膨らむという現象にありまして、27年以降につきましては暫時、大型事業が基本的には26年度までに完了させ、27年以降は大型事業というものがないとは言いませんけれども、少なくなっている、今、財政計画であります。

一方、投資的経費の2点目の質問でありますけれども、今ほどのお答えと重複する部分もありますけれども、今のところ平均でいきますと40億円程度ということなんですけれども、23年度ベースで申し上げますと51億円ぐらいの投資的経費、普通建設費と言ってもいいと思うんですけれども、この規模であります。昨年策定した長期財政見通しの中では、平成31年度ぐらいの年度で想定すると7割ぐらいの減少という見方も、1つは昨年の段階ではしております。

これらはもちろん見通しという中での試算ではありますけれども、投資的事業、いわゆる普通建設費も26年度まではむしろ高くとまっている、非常にボリュームがあるけれども、27年度以降は言いましたように、暫定的にやはり大型事業が姿を消していくような形で、今後3年間の事業を詰めていきたい。現在、最終調整中の実施計画の中で、それらを明らかにしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

それでは各分野別について各担当課より、後期基本計画における事業計画並びに概算事業費についてお伺いしますけれども、まず、財政担当のほうで各分野ごとの、特別会計もありますので、2,300億円から500億円ぐらいの大体予算になると思いますけれども、その各分野別にどのぐらいの予算を振り当てるか、その辺のところは集計されてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

後期基本計画の5カ年ということでありますけれども、いま少し5カ年でなくて3カ年の分野別の集計が手元にありますので、この3カ年がボリュームのある3カ年でありますけれども、参考までに数字を報告したいと思います。

失礼しました。申しわけありません。合計をちょっと今出しておりませんので、また後ほど集計いたします。失礼します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

それでは、それは後でお聞きすることにして、まず、3番目の生活基盤整備からお伺いいたします。

初めに、建設課にお伺いいたします。同僚議員からも質問がございましたが、道路、橋りょうについて、これは糸魚川市だけの問題ではありませんけれども、資料によりますと、平成21年度末現在で、糸魚川市が管理している橋は541橋あると聞きますが、これらの橋のうち既に50年以上経過し、老朽化している橋は約5%の25あります。また、今後20年後には64%の300にのぼると言われておりますが、今後5年間の整備計画、並びに概算費用はどのくらい見積もっているのか、あわせて道路改良費についてもお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

お答えいたします。

後期基本計画の建設課分の主な事業につきましては、幹線道路及び生活道路の市道整備、橋りょう修繕、消雪パイプ整備、河川、排水路の整備、雨水幹線の整備、公園緑地の整備が主なものでございます。

ただいま申し上げました事業費につきましては、建設課が独自に試算をしたものでありまして、現時点では、平成24年度の予算編成も完了しておりませんし、国の交付金の予算づけも確約されておられません。また、社会状況の変化に応じながら、当面、3年間の実施計画も毎年度ローリングしていくということになりますので、その間に取り下げになる事業もあれば、逆に緊急に実施しなければならない事業も出てきますので、この数字については、信憑性に欠ける数字であるということをご理解いただきたいと思います。

最初に橋りょうでありますけれども、橋りょうの数は今年度、2メートル以上15メートル未満の橋りょう413橋。当初417橋あると想定して点検を23年度に委託しましたところ、413橋という結果が出ておりますので、541橋じゃなくて533橋になります、現時点で、11月末現在で533橋ということになります。そのうち15メートル以上の橋りょうが115橋、2メートル以上15メートル未満の橋りょうが413橋、歩道橋が5橋ということで、533橋ということになっております。

それと、あと修繕計画でございますけれども、今年度は3橋修繕しておりまして約7,800万円ぐらいの事業費をかけておりますけれども、今後24年から28年の橋りょう修繕の事業費ですけれども、10橋を予定しておりまして3億3,000万円程度、非常に少ないですけれども、これが道路整備の交付金と同じ仲間に入ってますので、橋りょうにたくさんお金をかけますと、道路整備ができなくなるということもありまして、当面の5年間は、これぐらいの程度で進めていきたいというふうに考えております。

それから道路の事業費ですけれども、市道整備の事業実施予定路線数は、各地域から要望を受けました路線を実施しとるわけでありまして、二、三年継続する路線、その期間内に新たに新規実施と

なる路線、合わせて60路線を5年間でやる予定にしております、これも概算事業費でございますけども、19億6,000万円を予定しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

今後20年間に300の橋を改修するとしたら毎年15、平均すると改修していかなければならない。これはさっきも言いましたけども、糸魚川だけの問題じゃなくて、全国的にこれは大変なことになるんじゃないかなと思いますけども、そういう非常に修繕をしていかなければならない。

今後、橋の補修や架けかえ費用の急増が予想されますけども、今後の財政状況や高齢化社会に向けた対応などを考えれば、インフラ整備における財源が限られてくると。適切な管理と計画的な改修が必要となりますが、コスト縮減を図るために何らかの対策を講ずる必要があると思いますが、具体策をお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

お答えいたします。

コスト縮減、橋りょうの修繕をするときに設計委託を出します。そのときに本当は橋脚とかけたがひび割れておったりすれば、直ちにやりかえということになるわけですけども、それを何とかもたせるということで、補強をとるような工法でもってコスト縮減をさせてもらっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

それはもちろんなんですけども、今後の対応として例えばPFI方式とか、民間から資金を活用して新たな形で改修していくとか、いろいろな形が考えられると思いますけども、それはそれとして財政担当にお伺いしますけども、今後七、八年後の推計では、一般会計で公共投資に回せる予算は、現在の3分の1程度だと思えますけど、これはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

23年度の当初予算では、普通建設費の占める割合は18%程度になります。これを仮に5年後という見方になりますと、先ほど言いましたように、260億円に対する40億円ということになりますので、これはあくまでも5カ年平均ということでありまして、現実には単年度の減額があり

ますので、平均でも40億円ということでありますので、公共投資の規模は、もうかなり減少するというふうに見込んでおります。そのためにも前段で先ほど申し上げました計画的な施設整備、予定されている部分の大きな事業の大方は、26年度までに整備を完了させたいという思いであります。

ただ、今ご承知のように、合併特例債の期限延長という話も国でされております。まだ国で継続審議中ということになっておりますけれども、次の通常国会で決まることになるか、まだわかりませんが、そういったことになりますと、今、26年度までで、何とか優良債を充当しながら事業を積み上げておりますけれども、そのことが決定されることで、年度の平準化等も行いながら、財政計画の見直しが必要になってくるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

金額は聞くことができなかつたんですけども、非常に厳しくなることということですが、平成22年度の決算、9月定例会で発表がありましたけれども、そのときの道路橋りょう費というのは、総務費も含めてですけども19億円だったと思います。つまり七、八年後の平成30年ごろには、一般会計においても、ほとんどほかの公共事業ができなくなるぐらいに今後予想されるという中で、橋1つとっても、かなり金額がかかります。果たして計画どおり、今後の橋りょう部分ができるのか。そしてまた全体に公共事業ができるのかというと、極めて不安になるんですけども、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

お答えします。

確かに高度経済成長期時代というのがありましたけども、その時期に比べますと公共事業というのは約半分ぐらいになってきているということで、非常に厳しい状況でありますけども、公共事業だけどんどんやるということは、全体を考えた場合できないものですから、完成年度がおくれたり、新規になるのがおくれたりということで、対応しているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

橋りょうの問題は、非常に事業費のかさむ大きな課題だと思っております。

国も非常に橋りょうにつきましては点検を行いまして、今後の橋りょう整備のあり方についても、一部マスコミにも報道されておりますが、これだけの市内の橋りょうの多さからいたしますと、一挙に、あるいは短期間に整備をするということは、おのずと限界があると思っております。国も今の

維持には限界だという見解もありまして、やはり延命、今、建設課長からありましたように長寿命化計画をつくって、少しでも集中的に単年度で整備するというのではなくて、そのピークになる時期をずらしながら補修をする等のことで、安全確保を図っていかなければならないと思っていますので、今ほど投資的経費全体が少なくなる中で、橋りょうの占めるウエートはそのままだということは、現実的にはあり得ないというふうに思っています。

よって、全体の中でより優先度の高いものから、橋りょうも着手していく必要があるというふうに考えておりますので、これは3カ年の実施計画、あるいは毎年予算編成の中で担当課とその辺は十分連携しながら、整備計画に当たっていききたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

今答弁があったように、はっきりとした優先順位を示していただいて、整備計画を立てていただきたいと思えます。

ちょっと話は変わりますが、治山治水についてお伺いたします。

先日も西海地区、それから能生筒石地区に地すべりが発生しましたけども、地すべり地帯を多く抱えているだけに、非常に心配になるんですが、近年増加傾向と申しますか、発生しました深層崩壊、これについては該当地区はこの市内にあるのかどうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

お答えいたします。

地すべり対策事業、砂防事業も含みますが、地すべりや土砂災害から公共施設、地域住民の生命財産を守るために国土交通省、新潟県から事業主体になっていただいて、非常に多くの仕事をやっていただいております。

例えば例を申しますと姫川水系では、国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所から7カ所で砂防工事をやっていただいておりますし、その事業費も12億7,000万円という高額な事業費をもって、毎年、毎年事業をやっていただいております。

それと、あと県のほうでも焼山火山砂防事業、通常砂防事業とかいいまして、2級河川の焼山川、火打山川、通常砂防事業で申しますと根知川だとか早川だとか、筒石川もやっておりますけども、いろんな箇所ですらそういう砂防事業をやっていただいております。地すべり対策につきましても、各地区の山間部でもってやっていただいております。

それから深層崩壊についてですけども、たしか平成22年8月11日に国土交通省河川局砂防課等独立法人土木研究所というのが申しますけども、その8月11日に深層崩壊に関する全国マップというものがプレスリリースされまして、これが新聞の記事になったものだと思っております。時期を見ますと、去年の盆ごろの新聞だと思えます。

その深層崩壊に関する調査の第1段階として、明治元年（1868年）以降に発生した崩壊土砂

10万立米以上の、降雨と融雪が原因でもって発生した過去122の発生事例を整理しまして、流域量が大きい地域や特定の地質に分類される地域で、特に多く発生していくということがわかりまして、これに基づいて日本全国の深層崩壊の発生頻度を推定しまして、深層崩壊推定頻度マップというのができ上がりました。こんなような地図なんですけど、このような地図ができ上がっておりまして、大ざっぱに深層崩壊の発生頻度が、特に高い地域、高い地域、低い地域、特に低い地域と4段階のレベルに分類されております。

特に新潟県では、長野県との県境の小谷村で稗田山の大崩壊や、最近では蒲原沢の土石流崩壊ほか多数が発生しておるわけですが、そのために糸魚川地域の一部は、特に高い地域ということでこの地図に示されております。しかし、このマップは簡易な調査によりまして、

議長（古畑浩一君）

串橋課長、一生懸命答弁されている途中であります。質問の趣旨をよく理解して、端的に答弁するように願います。

建設課長（串橋秀樹君）

はい、わかりました。

今まで述べましたように、糸魚川地域がこの地域に入っている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

糸魚川地域が若干含まれると。しかも上流ですので、極めて万が一の場合は危険なわけですが、これについては十分今後の対策をとるようお願いしたいと思います。いずれにしましても、今後の安心・安全のために注意を払っていただきたいと思います。

次に移ります。ガス水道局にお伺いいたします。

初めに、上水道における各施設の現状について、また、水道施設の耐震化等については万全かどうか。加えて、市内全域における老朽化した水道管の現状はどうかお伺いいたします。そしてまた、石綿管の残量はどのくらいあるかをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

お答えをいたします。

水道に係ります現状等でございますけれども、施設ですね、管路は特に経年管といいましょうか、昔の塩ビ管が多く残っているという状況でございます。おっしゃられますように石綿管もあると。具体的には5,000メートル、5キロほど市内では残っているということでございます。

それから耐震化のことでございますけれども、耐震化事業を続けてまいっておりますけれども、現在の状況でいいますと、耐震化率が24%程度ということでございます。計画といたしましては、これから28年ぐらいの間に、30%ぐらいまでもっていきたいということでやっておるわけですが、なかなか率としては低いというふうに理解されると思いますが、大変な量をこなしてい

くという状況の中で、今の5年間の間では30%ぐらいを目途に頑張っていきたいというふうを考えておるところでございます。

それらにかかる概算事業費ということになりますと、どうなるかまだわからない、全くの粗々でございますけれども、15億円程度は必要なのかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

後期基本計画では、給水人口の減少に伴い給水量が減少し続けているため、将来の水需要に応じた施設の見直しが必要であるとありますけれども、具体的に、その事業をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

お答えをいたします。

人口がじわりじわりと減っている状況の中で、給水人口も減ってくるのは当然のことだというふうに思います。施設があちこちに点在をいたしております。先ほど言いましたように古い施設もあるという中で、施設があちこちにある。これを統廃合することによってかかる経費、人件費も含めてでございますけれども、縮小、軽減をして、その対応を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

後期基本計画では、水道事業の健全経営を図るため受益者負担の原則に立ち、独立採算制を基本として適正な料金体系に向け検討するとありますけれども、旧糸魚川、青海、能生地域、それぞれにおいて料金体系が異なりますが、この点については、今後見直しの予定があるのかどうか、また、今後の施設整備を考えた場合、現段階での料金が適正であるととらえているのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

水道の経営に関するということでございますけれども、水道事業に関しましては企業会計ということで、その中でバランスをとっていくというのが本旨でございます。

そういった中で料金につきましては糸魚川・能生・青海、差がございます。これを縮めるべく対策はとっているところでありまして、例えばその1つの例といたしまして、水道の広域管網ということで梶屋敷から、今、能生のほうに向けて管路を整備をするという事業を進めさせてもらってお

ります。これが実際につながりますと、一定の成果が上がってくるというふうに考えておりました、そのようなことによって料金がある程度、格差が是正をされてくるのかなというふうに思っております。

ただ青海地区と、また糸魚川地区とでは大きな料金差がございます。これについても解消していかなくてはならないわけでありまして、それぞれの区域の中での経営を進めておるわけでありまして、簡単に調整というわけにはまいらない。ただ、それぞれの中で、適正な経営がなされているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

下水道事業について伺います。

施設の耐震化状況はどうか。また、施設によっては更新時期を迎えようとしているもの、あるいは老朽化による修繕費用の増加が考えられますが、現状をお伺いいたします。

それから人口減少や高齢化等も重なり、下水道事業の運営も厳しくなると思いますが、今後の整備計画及び概算事業費はどのくらい見積もっているか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

お答えをいたします。

下水道事業でございますけれども、まず、耐震でございますが、耐震につきましては、ここ最近のものについては耐震が図られているわけでありまして、事業を実施したのが最初は能生地区は55年、青海は56年、糸魚川地区では58年、このころにしたものにつきましては、耐震化がなされていない部分が多くございます。これをこれから進めていかなくてはならないわけでございますけれども、かかる事業費といいましょうか、これも粗々でございますけれども、5年間ぐらいを想定いたしますと、約7億円ぐらいは必要なのかということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

上水道・下水道すべてに言えるわけですが、先ほどの橋と同じで、これは全国的にやっぱり大変な時代が今来ようとしていると。新聞に載っているんですけども、財務が健全なうちに将来の更新費用を積み立てることがまず大事だと。あるいは、いろいろ書いてあるんですけども、やっぱり計画を持ってやっていただきたいと思います。恐らくいろいろなものが今後集中してきますので、優先順位をしっかりとやっていただきたいと思います。

次に、ガス事業について伺います。

初めに、ガス管について腐蝕劣化や地震対策が必要なもの、また、ガス供給施設の耐震化はどの

ようになっているか、今後5年間の概算費用をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

お答えをいたします。

ガスにつきましては、耐震化が管路等については相当図られてきていると。パーセンテージで申し上げますと、95%程度は管路については耐震化が図られているということなのですが、それも50年ごろにやった管路については、技術的にまだ弱いといった時期のものがございまして、そういったものをこれからやっていかなくちゃいけないということで、この28年度までの間では、そのあたりは100%ぐらいまではもっていけるのかなというふうに考えておるわけですが、事業費としては大体10億円程度を見込んでおります。

供給所等につきましては、耐震補強はすべて完了いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

いずれにしても、今ほどのライフラインは市民の生活に直結するだけに、安心で安全な施設整備を早急に行ってほしいと思います。

次に、都市整備課にお伺いいたします。

各議員より、並行在来線の車両運行や安全面について質問がありましたので省略いたしますが、次の点について質問いたします。これは副市長がいいのかな。

初めに、並行在来線の経営については大変厳しい経営が予想されますが、それだけに鉄道部門のほかに収益を生み出すものを真剣に検討していかなければならないと思いますが、現状、どのようになっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

きのうからこの話が出てるわけですが、当然、赤字が出るということの想定の中では、やはり多くの方から利用していただく、あるいは利用する機会をつくるというのは、やっぱり経営の安定化につながるわけですので、そういう面で市民を挙げて利用の促しをしていきたいということで、今後取り組んでまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

具体的には出てこなかったんですが、運賃を1.6倍にしても最低でも300億円の赤字が出る

というふうな発表があるわけですが、結局は貨物調整金、あるいは新幹線貸付料に頼らざるを得ないという非常に不安定な部分があります。

今回の並行在来線の定款には、旅客鉄道事業のほか不動産事業、旅行業、広告業、飲食業、あるいは日用雑貨販売など約10項目の事業内容が定款に掲載されておりますが、同様の内容が、しなの鉄道株式会社でも記載されておりました。しかし、全売り上げに占める割合は数%。しかし、これらを一生懸命やらないと、非常に厳しくなるなというふうに思いますけども、現在のところ会社側では、どのようにとらえているか。全く話になっていないのか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

会社の定款の中に、今、松尾議員が言われたことは載っているわけですが、具体的なものは、これからだというふうに思っております。やはりより地域に密着した鉄道運営をしながら、少しでも収益が上がる事業をいろんな角度から検討したいということでの話は、皆さんの統一した考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

ちょっと紹介しますけども、実は千葉県大多喜町にありますいすみ鉄道、これは廃線の危機にあって、民間の力で再生した鉄道ですけども、この鉄道の企業努力といいますが、大変なものがありまして、まず、地元商工業者と連携して特産品加工の開発、販売を行い、地元産業の育成にも力を入れて電車の中で売るとか、駅で売るとか、こういう民間との協力をしています。

それから2点目として、観光メディアに取り上げられるよう、テレビや映画のロケ地としても利用され、かかわりのある有名人を観光大使としてPR活動を積極的に行っている。

あるいは3番目には、旅行社とタイアップして海外に向け、観光商品の企画販売を行っている。総合旅行会社といいますが、そういう形でやっている。その他イベント列車等々をやりますけども、こういうふうに非常に努力をしてもやっぱり厳しいと。

今後予想されるのは、やっぱりこの並行在来線の経営内容ですけども、この辺について維持費はかかる、あるいは雪とか塩害とか列車の、きのうも質問がございましたけども、それからディーゼルにした場合には安いけども危険だとか、いろいろ想定されるわけですが、これらについてちょっと見方を変えて、いっそもうバスという。

ちょっと極端ですけども、例えば鉄道の話、今、皆さんでされてますので、それについて云々言うつもりはございませんけど、例えば視点を変えて言うならば、糸魚川市は交通確保対策でバスの補助をやってると。しかし、いっそもうこの際に直江津から泊までの間は、バスを物すごく充実させると。並行在来線をしたばかりに新駅をもしつくるというような話になった場合には、またそこで金がかかると、それも数億円かかると。

しかも、さっき財政の話をしましたけども、やっぱり厳しくなるだけに、もうこれ以上余計な金

は使いたくないというのが本音だと思うんですね。そのときにバス利用というものを、やっぱり少し検討課題としてやるべきではないかなというふうに思うんですけど、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新幹線が通るということでの並行在来線の話が出たわけではありますが、ここの北陸本線については、やはり日本海を縦貫をする重要な路線である、そのことが基本になると思っていますので、今、松尾議員からバスの代替え等の話がありましたが、それは最悪の事態での考えになるんだろうと思っています。当面は、やはり今の並行在来線の考え方をしっかりとらえながら、その中で赤字をどうするかということは、また会社、あるいは国、県、あるいはJRに呼びかけをしたりして、しっかりした補てんを確保する中で運営をしていくのが、まず優先だというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

今答弁をいただいたわけですが、貨物調整金とか、あるいは新幹線貸付料、これは入ってくる。しかし、どのくらいなのかわからないわけですよね、全部だろう話で。したがって、私はさっき言いましたけども、直江津から泊ぐらひはもう本当にバスを充実させると。もちろん線路はありますから、新幹線で糸魚川までは来ると。しかし、その後は近隣へ行く場合には、バスを大いに利用してもらおうと。バスの単価もそんなに上げないように努力して、どっちにしたって1.6倍にしても300億円という赤字になりますので、この辺は今後、またこういう話もあるということで、検討課題として挙げていただければと思います。

次に、駅周辺整備。これについては課長のところへ行って資料をいただこうと思ったんですけども、残念ながら1枚の紙で、ちょっと私も基本的なところがわからないんですが、駅周辺整備で、今後残っている糸魚川市の事業主体の整備事業及び事業費はどのくらいか確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

駅周辺の整備で今進めているもの、それから今後残ってくるものは北口広場の整備、それから同じく南口、それから糸魚川駅南線、それから当然、自由通路、橋上駅舎、それから駐車場や駐輪場、それから新幹線1階下を利用して考えておりますジオに関連した施設の整備、そういうものが今後この3年間の間で整備を進めなければならない事業で、おおよそ今のところは37億円から38億円という形で、今計画しているところでございます。

議長（古畑浩一君）

それでは、13時まで暫時休憩といたします。

午後0時00分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、松尾議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

午前中にご質問をいただいております後期基本計画の分野別の事業費の計ということであり、概算の事業費になりますけれども、申し上げます。

すこやか やすらぎ 支え合いのまちづくりでは118億円、明日を担うひとづくりでは97億円、便利で快適なまちづくりでは168億円、交流いきいき産業のまちづくりでは140億円、環境にやさしい安全・安心のまちづくりでは81億円、自立と協働のまちづくりでは6億円、合計で610億円となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

これは一般会計の部分、特別会計も入っておりますけれども、ありがとうございました。

引き続き、駅周辺整備でお聞きしたかったんですが、実は自由通路については今回補正で上がっておりますので、確認だけさせていただきます。これは減額になっているんですが、設計変更になったのかということ。

それから、あと駐車場なんですが、当初パーク・アンド・ライドという格好で、たしか200台だったか300台だったか、大きいものを予定していたと思うんですけど、今回というか、修正されて台数が少なくなったと思うんですけども、事業主体はもちろん市だと思っておりますけれども、まだもちろん料金体系等、無料にするのか、有料にするのか、その辺わかりませんが、利用者数がどうなのかなと非常に感じるわけですけども、その辺のいわゆる乗降客の数が、非常に前は多かったんですけども、やっぱり現実的にそれほど利用者が、もしかしたら現在考えれば少ないんじゃないかと思うんですけど、その辺をちょっと教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

まず、1点目の自由通路の変更ですけど、これは19日の建産の中で説明させていただきますが、

実施の中でJR委託のいろんな工事の見直しによるものでございます。それ自体の額が減ったからということではなくて、事業の実施の見直しによるものの設計変更ということでございます。

それから駐車場につきましては、これは一番当初は3階建てということで三百数十台、それがいろんな駅周辺の事業種の見直しで金沢開業時までには当面110台程度、要するに平面の駐車場ということで計画変更させていただきまして、今、詳細といいますが、これから今後工事を進めていきますし、当面、事業は市が発注いたします。それから料金につきましても、これはいろんな近隣の状況もありますが、一応今の段階では、ある程度のやっぱり料金をいただく中で、それが今の新幹線の利用があるものには例えば優遇とかというのは、今後また明らかにさせていただきたいと思いますが、今のところ金沢開業時の中ではこの平面の中で対応するという、そういう結果でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

その他のほかの点につきましては、また担当のほうへ行ってお聞きしたいと思います。

それでは、産業分野についてお伺いいたします。

まず最初に、農林水産業について。農業問題については、非常にいろいろと難しい問題がたくさんあると思いますけど、初めに市内における農業従事者の平均年齢、また、最近の傾向として新規就農者についてはどのような状況か、まず教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

平成22年の農林業センサス等によりますと、市内の農業就業人口は約2,000人ございまして、平均年齢69.2歳という状況でございます。また、新規就農者でありますけれども、新規就農者は、ここ数年の平均を見ますと年間1人、あるいは2人程度という状況ございまして、農業後継者として、青年の方が農業に参入しているというような事例も見受けられるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

69.2歳ということで、非常にこれは全国的よりもやっぱり少し高いかなと思うんですけども、また、新規就農者が非常に少ないと。これは商業もそうなんですけども、この農業については、やはりもっと魅力をつくっていかなくちゃならないというふうに自分自身は思うんですけども、後ほど6次産業についてお伺いしますが、市内における農業法人は現在どのくらいあるのか。また、稲作から複合型営農形態が定着しつつあると思いますけども、現状はどうか。それから経営状況、

さらにはインターネット等を利活用した販路拡大の状況を、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

法人の農業者でありますけれども、市内には農業生産法人で農業を営まれているのが4社、それから農事組合法人が1組合、特定法人の農業参入が4社、その他、会社組織での農業を取り組まれているのが2社ということで、合計11社でございます。

また、インターネット等によって農業者が直接販売しとるといような事例は、米とか、あるいはそのほかの野菜とか、あるいは農産加工品、こういうものについて直接直売所で販売する、あるいはインターネットを利用して販売するといような取り組みをされている事例は、多数ございません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

米だけに限って見れば非常に暗くなるんですが、やり方によっては、今後ますます魅力のある産業ではないかなと私自身は思っております。

なぜそんなことを言うかという、同僚議員から質問がございましたが、前回でしたかね、6次産業について。これは私ども清生クラブで、実は今回、東京のほうで農林水産省、それから中小企業庁、それから経済産業省でしたか、それから実際にやっている小布施町と、埼玉県のちょっと町名は忘れちゃったけども2カ所行ってまいりました。

この6次産業、今、農業法人が数社あるわけですが、こういった方々が積極的にやっていく上では、やっぱり資金面とかいろんな部分で不安があると思うんですけども、この辺、三セクとは言いませんけれども、やっぱり市からもある意味では個々の農業者に提案する意味で、1つの経済団体といいますか、農協さんと、例えばあと有志で、こういった6次産業というものに対して、やっぱりもっと積極的にやっていくべきではないかなというふうに思うんですけども、6次産業については、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

6次産業については、既に農業者がジャムを加工するとか、もち米を利用したおかきをつくるとか、いろいろな取り組みがなされております。そういう取り組みを市としても県と一緒に、有利な助成制度があればお伝えをして、ご利用をいただくといような形を通して支援をいたして

おります。

今後の新しい事業展開といたしましては各産業が連携をして、それぞれの技術力、資源を生かしながら連携をした取り組みで新しい商品、あるいはサービスの創出をしていくという取り組みが重要だと考えておまして、また来年度に向かって産業間の連携の取り組みを進めていくような考え方で、取り組んでまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

水産業にも同じことが言えると思いますし、また例えば商業者も非常に今の現状は、だんだんだんだん厳しくなっている。やっぱり若手が、後継者がいないというような中で、それぞれがやっぱり非常に悩んでいるんですけど、ぜひその辺のいろいろな状況をお聞きしながら連携できるような形で、行政も積極的にやっていただきたいと思います。

1つご紹介いたしますけども、実はこれ福祉にも関係しますけども、愛知県の今現在、豊田市ですけども、足助町というところに行った方がおられるかもしれませんが、あそこは福祉の施設に併設されて、シルバーの男性の方が食肉加工、それから女性の方がパンを製造する。隣にフランス料理をやったりウエーターとして、あるいはウエートレスといますか、男性、女性がやってるというような形で、それも恐らく6次産業にちょっと関係あるんじゃないかなと思うんですけども、そういうような方で、今、シルバー人材センターの仕事がないとかいろいろ聞くんですけども、ぜひ元気老人に、再度また仕事についていただくようなことも考えながらやっていただければいいかなというふうに思います。簡単に口では言いましたけども、その辺のことも研究しながらやっていただきたいというふうに思います。

ちょっと今、話が逸れましたけども水産業、これについての状況ですね、やっぱり若い人がいないと思うんですけど、この辺の状況はどんなもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

水産業の面で見ますと、市内には2つの漁業協同組合がございますが、その漁業協同組合の平成21年現在、正組合員180人おいでになりますけれども、それを年代別に見ますと、一番多い年代が70歳代で33%、60歳代が20%、50歳代が51%、30歳代が21%と、この大体4つの年代で、全体の80%ということで大半でございますけれども、こういう状況を見ますと、水産業においても高齢化が進んでおると。その中でも30歳代の方が農業とかに比べると多いという状況が見られるというふうな感じを持っておまして、そういう若い青年漁業者の方の取り組みを、漁業組合を通じて私ども市も応援をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

水産業においても今申し上げたように、やっぱり非常に加工することによって付加価値がつくと
 思いますし、これについても大いに漁協、あるいは若手の漁業者と新しい商品を開発をして販路を
 拡大していただく。非常に糸魚川市の場合は恵まれていると思うんですけども、どうもそういった
 ものについては、ややおくらしているのではないかなと思いますし、その辺の開発についても外の情
 報を仕入れながら、大いに関係者に提案していただければと思います。

具体的な話は、これでちょっとできませんけども、ぜひ農林水産については積極的に。この間も
 小滝のほうでオオイトドリでしたかね、やってますけども、ああいう形で非常にチャレンジしよう
 としている方もおられると思いますので、その辺のことをぜひ考えていただいて、積極的にこれら
 を推進して行ってほしいと思います。

次、工業のほうについてお聞きいたします。

工業については、まず、現状をお聞かせください。いわゆる売り上げ等々、製造業としてはどん
 な状況か、まず教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

東日本大震災の影響で、この春からその直後、大きく売り上げ等が落ち込んだ影響がございます
 けれども、全体的に持ち直しの動きがあったものの、最近では為替レートの円高の状況が続いてお
 りますし、また、タイの洪水によります部品の調達困難な状況等々で自動車関連、あるいは電子
 部品関連の輸出産業などでは生産に影響が出ているという状況でございます。また、欧米の経済の
 不振の状況もございまして、先行きの景況は非常に不安が大きいというような状況をお聞きいたし
 ております。特に、中小・零細企業では厳しい状況にあるというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

製造業は大手もあるわけですが、雇用の面でやっぱり製造業から頑張っていたかかないと、
 なかなかこの地域の活力というのは出てこないと思うんですけども、企業団地も幾つかあるわけ
 ですが、特に後期基本計画では、リサイクルポートの指定を受けた姫川港を活用して、企業の誘致活
 動にも取り組むとありますけども、企業団地における条件整備に問題点はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

市内には青海地域産業団地、それから姫川産業団地、能生地域産業団地の3つの産業団地がございますけれども、いずれも一部の土地を除きまして、市が所有している土地が少ないというのが団地の状況でございます、企業の立地の案件に対して、即刻用地提供ができる対応ができにくいというのが、1つの課題かなというふうに思っております。

また一方で、市が産業団地内の土地をほとんど取得するというのには、多額の経費が必要とされるわけございまして、すぐに企業が立地しない場合には、売却できないときには遊休土地となるような懸念もございまして、その辺のバランスがひとつ非常に難しいところだというふうに思っております。企業の立地案件があれば私ども即座に対応して、立地を進めていきたいということでの取り組みをいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

企業が進出したくてもその条件が合わないということなわけですし、確かに近隣で土地開発公社のいわゆる塩漬けになっている土地があって、問題になっていましたし、その点を考えれば糸魚川市の場合はよかったです、ただ、やっぱり進出してきたいけれども、そういう条件であるなら、これはなかなか出てこれないと。

せっかくリサイクルポートの指定を受けてるわけですから、ぜひこの港を活用するには、やっぱりそういった関連の企業とか、やっぱりもう少し積極的に、これをやっていかなければならないんじゃないかなと思います。

この港の整備目的は、産業振興と資源循環型社会の位置づけに向けて整備されてきたわけですが、後背地の利用計画がはっきりやっぱりしてないんじゃないかなと。結局、今のそういった問題はありますけども、それらのはっきりしたものが無いから、そういったものについても土地が高いから、今まで市がそれに積極的にかかわらなかったと言うと語弊があるかもしれませんが、その辺の策定についてはどんなもんなんですかね、教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

姫川港は、当地域の主力産業を支える物流の拠点だというふうに認識をいたしております。そういう意味で、姫川港のリサイクルポートとしての利用を含めて、企業誘致に努めていきたいということで対応いたしておりますけれども、県、それから地元の既存企業、地域の縁故の方などから情報をいただく中で、企業誘致の相談対応を進めているところでございます。

今おっしゃられましたように、後背地の利用についてのいろいろと課題があるわけございましてけれども、私どもはそれぞれの案件に応じた中で、今後とも計画的な対応ができるように進めていきたいというふうに思っております。

それから1点、修正させていただきたいと思うんですが、先ほどの水産業の年代別の構成のパーセントを申し上げたときに、50歳代を「15%」と申し上げるべきところを「51%」と言って

しまったということで、訂正させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足してお答えさせていただきます。

議員ご指摘のリサイクルポートとして生かし方が足りないんじゃないかというご指摘をいただきました。それに対しまして、我々はリサイクルポートのその趣旨を生かした企業誘致という中で動かさせていただいております。

ただ、今、引き合いに来て、ちょっとだめになった部分があるんですが、これは糸魚川の条件じゃなくて、やはり設置する側の条件というところで不成立に終わったわけでありまして。

と申しますのは、やはりいろんな資源を生かすために、資源を集める部分があるわけですが、日本全国どこで集めればいいのかとか、競合するのがあるとか、ないとかと、いろいろ判断もあったり、そしてコストの部分もあつたもする中で、たまたま相手側の条件の中で外れたということで、糸魚川は、それまではかなり有効な位置づけにいたわけでありまして。かなり、ある程度までもう進んだんですが、土地を確保するとこまでいったんですが、そういう状況になったわけですが、引き続きそういったことで、我々は条件を提示をさせていただきながら、そしてまた議員ご指摘のように、うちはスペースを用意してやるという形ではなくて、相手がいたら、それに合わせて集中的に対応していくというやり方をとらせていただいておりますので、今、その方向で進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

実現するには、まだ時間がかかるかもしれませんが、環日本海交流時代というふうに言われてますけども、今後、対岸のほうでいろいろな、今、政治不安定ですけども、やっぱり日本海側の時代が私は来るだろうというふうに希望的観測を持ってますけども、ぜひそういう意味で、今の港というのは対岸貿易に対しても非常に有効かと思えますし、ぜひ今後とも引き続きお願いしたいと思います。

最後に商工業といいますか、地元の企業で、大手製造業を除いて中小製造業、それから商業、サービス業全体を見て、海外進出している企業というのはどのくらいありますか、市の企業で。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

ちょっと詳細な数というのは調べたデータがございまして、明確には申し上げられませんが、海外の企業と合併で進出をしているとか、あるいは単独で中国あたりにお店を持っているとかいうような企業は、かなりの数であるというふうには認識いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

こういった企業に対しては、やっぱり把握してほしいんですね、というのは非常に努力してる。把握してないということは、それは商工農林水産課として、やっぱりもっともっと積極的にそれらの状況を調べながら、またそしてそれなりにやっぱり彼らも悩んでいるわけですので、ぜひ相談相手になるぐらいの、いろいろな意味で情報を集めていただきたいと思います。

では時間がございませんので、ジオパークはまた次回にすることにして、リサイクルが出ましたので、環境のほうについてお聞きいたします。

なぜ今の廃棄物の安定化の工事、それから新設の廃棄物処理場がおくれているのか、ちょっとその辺の理由をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今、一般廃棄物最終処分場の安定化工事、それから増設工事については、当初、一般廃棄物最終処分場の下流部に、新たな処分場を増設することによりまして、現処分場の適正化事業も交付金の対象になる部分があるのではないかとということで、適正化事業になかなか着手できなかったということがございます。それは市の姿勢として、取り組みがおくれているというような形の中で、なかなか地元の方に理解が得られなかったというのが、おくれた原因だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

あそこの処分場が閉鎖されてから、ごみを運搬するだけでも年間1億円くらい多分かかると思うんですけども、早期にやっぱりしていただきたいというふうに思います。

具体的な計画ですね、実際のところは計画書のほうも進んでいるんですか。全くそれは今の話のように、ちょっとストップしているんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今現状につきましては、適正化事業について一部ボーリングの実施設計を発注いたしております。それと調整池、それから集水口の設置について、今年度に何とか発注したいなというふうには考え

ております。できるだけ早く、適正化事業については行っていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

ぜひよろしく願いいたします。

それから、ちょっと話が逸れますけれども清掃センター、これについてはやがて更新時期がやってきますし、同僚議員からも今後どうするんだというようなお話がありましたけれども、これについて1つ提案をさせていただきますけれどもAKシステム、つまり家庭ごみを焼却して、それをセメントにかえるというシステムだと思うんですけど、これについて情報があれば教えていただきたいと思います。どういった利点があるか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

関東地方のセメント工場で、そういう事例があるというふうには聞いております。確かに非常にセメント産業というのは廃棄物利用で、いわゆる排出物がないというのは非常に大きなメリットだと思います。ただ、糸魚川の市内にありますセメント工場は、それをすぐ適用できるかどうかというのは、今後セメント会社等と協議をした上で、いろいろ調べていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

松尾議員。

21番（松尾徹郎君）

私はこれまでちょっと聞いてみたんですけども、このシステムを使うことによって、ごみ袋のまま焼却キルンに直接処理できると。清掃センターを建設しなくて済むということ。それから高齢者のごみ分別がまず楽になると。それから今言ったように、セメント原料になるということと、それから最終処分場の今度は延命化が図られると。それからCO₂の発生が少なくて、環境にやさしい。次には、当市においてはやっぱりセメント工場があるだけに、条件的には非常にいいと思うんですね。今後の清掃センターのことにつきましては、やっぱりこれを積極的に考えていくべきではないかなというふうに思いますし、ぜひその辺のところも研究していただきたいと思います。

まだ幾つかあるんですが、次回に回したいと思います。

これで一般質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、松尾議員の質問を終了いたしました。

引き続き一般質問を行います。

次に、久保田長門議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。〔9番 久保田長門君登壇〕

9番（久保田長門君）

奴奈川クラブの久保田長門です。

通告に従い、教育行政について一般質問を行いますので、よろしくお願いたします。

文部科学省の通達により、平成24年度から全国の中学校で新学習指導要領を実施する。

改正された教育基本法が平成18年12月22日から施行されたことにより、教育環境が必然的に移行し、教育改革が求められ、叫ばれて久しい。

今、公教育の最大の問題は、首長、教育委員長、教育長がばらばらである点にある。文部科学省を含めたこの4者の関係を整理し、教育の地方分権をいかに進めるか、我々議会議員も精緻な議論が求められる。

以上の観点から考察し、6項目の質問を行います。

- (1) 平成24年度から上越3市の中学校で採用される教科書の採択の手順について伺います。
- (2) 平成24年度から全国の中学校で教育活動の一環として「武道」と「ダンス」が採用されるが、導入するに当たり市の考えと、その課題を伺います。
- (3) 学校と地域が連携した防災、防犯対策について、防災教育の市の現状と課題を伺います。
- (4) 特別支援教育の中で学校現場からの声で「発達障がい」のある子と係わっていく教育について、市の現状と課題を伺います。
- (5) 教師の世代交代期を迎え、若い教師を育てる喫緊の課題の下「教師力の向上」を目指し校内研修（OJT）に取り組んでおられるが、市の現状と課題を伺います。
- (6) 教育の権力、権限の見直しが迫られる中、この指摘に対し教育における政治的中立と、法的整合性の面からも見て、どのように考えているのか、市の見解を伺います。

以上、1回目の質問を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

久保田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目、上越3市で地区教科用図書採択委員会を設置し、各市教育委員会の諮問を受け、採択する教科用図書について協議し、当市教育委員会で採択の可否を決定し、教科用図書として使用しております。

2点目につきましては、新学習指導要領で必須となりましたことから、特性を生かした指導を実施してまいります。課題といたしましては、用具の整備と指導者の指導力の向上を図ることなどがあります。

3点目につきましては、学校が地域の避難所になっていることから、地域と一体となった防災訓練が必要となっています。地域の自主防災組織と連携した防災訓練や防災体制の学習会を行っていくことが重要と考えます。

防犯対策では、子どもの登下校の見守り隊の結成や、あいさつ運動の実施など、安全・安心な地

域づくりのため地域を挙げての防犯対策が進んでおります。

4点目につきましては、発達障害を抱える子どもの数は増加傾向にあります。そうした中で、発達障害に対する専門的な知識や経験を有した教職員が不足している現状があります。

5点目につきましては、糸魚川地域は若い教職員が多い地域であり、校内研修では若い教師の育成のために授業の展開や児童生徒の内面の理解などについて、全職員で若い教師をバックアップしています。教育委員会としてもグローアップ研修として、管内の若い教員の授業力向上に努めております。

6点目につきましては、市といたしましては法律に基づき学校の政治的中立を確保し、教職員の自主性を養護した教育ができるよう配慮しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

ご答弁ありがとうございました。

再質問に入る前に、糸魚川市内に全部で26校ですか、公立高校から含め、ひすいの里分校を含め、それで教育公務員として避けて通られない法律を2点ほど紹介させていただきます。

まず1点目は、前段にも指摘しましたが改正された教育基本法、いわゆる18年12月22日ですか、それに基づいて教育基本法第3章、教育行政（第16条）を読まさせていただきます。

教育は、不当な支配に服することなく、この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものであり、教育行政は、国と地方公共団体との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行われなければならない。

もう1点です。教育公務員特例法第18条であります。公立学校の教育公務員の政治的行為の制限もあります。

それでは再質問に入ります。

6月23日開催の総務文教常任委員会が市の教育会館へ、平成24年度から上越3市で採用すべき教科書の展示を視察の折、机上調査でも指摘されましたが、採択されるであろう教科書以外に不適切な、まことにその場にあってはふさわしくない展示物があって、そのことについて厳しい指摘を受けて、具体的にどのような指摘を受けましたか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

教科書を展示していた会場の入り口壁面に、ある特定の政治団体のポスターが貼られていたということについて厳しいご指摘をいただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

その指摘を受け山崎課長は、市の教育委員会として環境整備を進めていく、誤解のないようにと答えておりますが、教育基本法から照らし合わせて違法行為と私は思いますが、そのことについてどのように思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

この件につきましては、ある特定の方のための掲示をしたということではなくて、環境整備の状態がこちらの手落ちであったということで、すぐ整備し直させていただいて、環境を整えさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

ここで確認ですが、市教育委員会としてあの6月23日、市の教育会館において、まず、地方自治法、あるいは教育公務員特例法第18条に、公立学校の教育公務員としての政治的行為の制限について抵触しない考えなのか、その辺を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

抵触しないと思っております。その理由は、特定の政治団体等を含めてですが、それを特定の間が指導する、あるいは支持する。そういう行為を子どもの前で行った場合に、政治的中立に違反するという形になります。

それから教科書センターの建物というのは教育会館であるということで、その辺も私たちもちょっと見落としの部分があったというところで反省しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

当市の教育委員会と私の認識は、大分ずれていると思います。

さきの3月の定例会で前こども課長は、教職員の遵法精神、服務規律の確保、それから規範意識の醸成という部分を、教職員は非常に大切にしなければいけない職責の1つと答弁されておりました。過ぎたものは、もうもとへ戻ることはできません。しかしながら、今後このようなことをどの

ように改善していくか、そこら辺の考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

議員のおっしゃるように、我々は法のもとで教育等の業務を行っております。中立が保たれるように今後細心の注意を払いながら中立等に努めてまいりたいと、そう思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

議会の初日、議運の甲村委員長は上越市の反問権の件を指摘されておられましたが、私たち糸魚川市議会はまだ確立しておりません。しかしながら指摘をさせていただきます。

6月23日に開催された総務文教常任委員会で、教育環境及び教育改革を議題とした会議録を振り返り、検証であります。委員長を含む6名の委員が発言し、教科書無償措置法のことを当該委員が全く理解せず、糸魚川市の教育費の負担について問うておりますが、私たちの教育問題を語るときは、教育基本法なしでは語れません。

また、よくご存じだと思いますけど、この教科書の採択問題において、このようなことを語る時、この教科書無償措置法なしでは私は語れないと思いますが、そこら辺の見解をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えします。

子どもたちに教育の保障をするという意味から、公平に学習ができるように教科書がそれぞれ教科用図書として無償で配布される。義務教育の公平性等が保たれるために、ぜひこれは必要なことであり、重要なことだと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

このようなレベルで質問を行っていると、まさに6月23日に起きた教育会館の顛末となってくると思います。当日、議会視察が朝から決まったわけでもありません。なぜこのようなことが起きてくるのか、もう一度お願いいたします。

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

もう一度お願いします。

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

このような展示物がなぜ教育会館で展示されたのか、そのことを改めて問います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

私どもの事前点検及び意識が、若干違う方向へ向いていた、展示の会場のみに向いていたということが原因だと思います。反省しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

簡単に言えば、全く緊張感がないということです。

当該委員の中では、言葉を慎重に選び指摘された委員もあります。現状もれたのは行政の怠慢だけでなく、私たち議会にも責任があるかと思えます。都合が悪くなれば全く法を守らない教職員にとって、まさに言葉は悪いですが、思うつぼです。こんなことを展開している限りは、緊張感が出てこないと思えます。行き過ぎた思想教育を続ける教職員の違法活動を幫助する形となります。

周知のとおり現大阪市長の橋下氏は、その発言の中で大阪の教育行政を憂いて、何々教育委員会と厳しい指弾をしたが、その言葉遣いはともかく、考えを同じくすることは多いと思えます。

それでは、1番の教科書の採用手順について伺います。

教科書選定の一連の流れで、上越3市の各採択協議会委員3名ずつ、9名がおられますが、各3市の教育委員会で審議を終了して、そのことから各教育委員会で再度審議をするということはありませんが、なぜそのような審議を行うか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

教科用図書採択に当たりましては各教育委員会、3市教育委員会で採用を決定するわけですが、それに際しまして各市の教育委員会から、3市の代表者で構成する採択協議会にその選定についての諮問をいたします。その採択協議会の委員に各3市の教育委員と教育長が代表として出席され、それで9名ということで協議会を結成いたします。さらにその協議会が選定委員会、あるいはその教科の専門性を有する調査委員会にその調査等を依頼して、その結果を採択協議会で採択についての協議をし、各教育委員会に答申をするわけでございます。

それぞれ各教育委員が、全部代表として出てるわけではございませんので、各教育委員会がその地域の子どものに適するものかどうかを最終的に、それぞれの市の教育委員会が判定をするということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

なぜこのような指摘をしたかと申しますと、多分ご存じだと思いますけど、沖縄県教育委員会での異常が発生している。また、近いところでは石川県の小松市ですか、あってはならないようなあり方をしている。

例えば教育委員会は、教科書を採択する権利がありますよね。教育委員会の委員ですね、そういった委員が教育委員会の事務局に寄って、これは実際にあった話ですよ、2人の女性委員が、いわゆる育鵬社の教科書を選定したところ、事務局によっておまえた責任とれるんかと、そういう圧力が実際に起きてるんですね。今、教育委員会が決めることは、私たちは一切知りませんけど、そのことを指摘しないと、あすにでも私たち糸魚川市に当てはまることあると思うんですよ。だれかが指摘しないと、こういうことが今大きな教育の世界で問題になっておりますけど、その辺をどのように考えておられるか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

教科用図書の採択につきましては、子どもたちが実際理解しやすく使いやすいもの、それから教師が使いやすく教えやすいもの、それらを第一に考えながら、公正に採択されるものだと考えております。したがって、教科書の選択については、公平かつ子どもたちのためになるという観点から、採択をしていくということを肝に銘じながら採択をしていきたい、そう思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

日本人として誇りを取り戻し、主権国家の国民たる自覚を養わせる歴史と公民の教科書が飛躍的に増加した今、先ほど上げました育鵬社ですね、多分420地域ぐらいが取り扱ったと聞いておりますけど、横浜市教育委員会では改正教育基本法を照らし吟味した、あるいは武蔵村山市の教育長は、育鵬社の教科書は新学習指導要領の趣旨に最も合っているとのことです。このことが新潟県が示した調査項目の中に、今指摘したようなことが指摘されていたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

私の知り得る限り、特に指摘されていたということはなかったと、そう理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

どのような教科書が採択されたか、会社名と、これ該当する総務文教常任委員会に報告があったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

総務文教常任委員会では、具体的な会社名まではお伝えしてなかったと、そんなふうに思っております。

議長（古畑浩一君）

どこになったか聞てるんだ、言えるんか言えやんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

失礼をいたしました。

それでは来年度使用の中学校教科書についての採用会社名を申し上げます。

国語につきましては光村図書、それから書写につきましては学校図書、それから社会につきましては、地理が東書、それから歴史は同じく東書、それから公民、教育出版・教出、それから地図が帝国書院、それから数学については学校図書、それから理科については東京書籍・東書、それから音楽につきましては教育芸術社、器楽につきましても同様であります。美術につきましては開隆堂、保健体育につきましては学研・学習研究社です、それから技術・家庭科につきましては、技術分野、家庭科分野とも開隆堂、それから外国語につきましては、開隆堂というふうになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

日本教育再生会議が文部科学省の中央教育審議会で諮問し、平成18年12月22日に新しい教育基本法が施行されたわけですが、いわゆるこの新学習指導要領というのは、たしか平成20年度から採用され、なぜこの質問をしたかと言いますと、今回から教育委員自身が教科書の内容をよく調査し、採択を決定すると報告があるが、大筋でこの流れで当市、糸魚川市もよろしいですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

先ほどご説明いたしましたように昨年度から3市協力しながら、最終的に各教育委員会が採択を決定するという形で進んでおります。この方向で進んで大丈夫かと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

それでは、2点目の武道とダンスの導入について質問を行います。

武道、ダンスの必修化は、学校体育において大きな改革であり、実際に生徒に指導する教員の取り組み意欲と授業づくりの創造力で大きな成果が期待できるとあります。

そこで武道指導者経験のある女性教師や、逆にダンス指導経験の男性教員は非常に少ないと報告があるが、当市はどのような現状ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

非常に少ないということではなくて、大学等において武道やダンスを必修としたりしている教員が、比較的少ない現状があるというようなことから、指導力等については若干不安を抱える教員が多いということが現状のことから、そういうお答えをいたしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

この武道、ダンスの指導で最も大切なことは、生徒が安全にそれぞれの特性の楽しさを味わい、武道、ダンスに親しむ資質や能力を身につけることが大切であると言われているが、この点について当市の指導要領みたいなものがありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

市独自としては、このための指導計画という形はつくっておりません。ただ、これにつきましては文部科学省から、指導の手引きというような形で出ております。それらを活用しながら、指導のプログラムを組んでいるというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

当市では中学校が4校あるわけですが、武道とダンスがそれぞれ同一なのか、それともオリジナルなのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

当市の4中学校での武道及びダンスの現在の実施状況であります。

施設用具等の関係から、武道につきましては3校で柔道をやっております。1校だけ剣道を採用しております。ダンスについては、全学校で実施をしているということです。1、2年生で、ほぼ必修の形で学習し、3年生で、武道とダンスの選択という形で実施している学校がほとんどであります。

議長（古畑浩一君）

久保田議員、先ほどの発言の中で、橋下市長を「橋下現市長」というふうにおっしゃいましたが、橋下氏は12月19日から大阪市長に就任をいたします。したがって、先ほどの発言を訂正し、「橋下次期大阪市長」というふうに訂正をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

議長の指摘したとおり、「橋下次期市長」ということで訂正させていただきます。

議長（古畑浩一君）

それでは質問を続けてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

この武道、ダンスを必修化ということで関係団体等と連携し、外部の指導者を活用する効率的な授業づくりを進めることも考えられるが、このことについて市の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

先ほども申し上げましたが、教員の指導力の向上ということも考えると、外部の指導者は大いに活用し、また、県の武道等の指導者派遣事業もごございますので、それらを活用しながら授業を充実させていくかということが、大変重要かと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

いずれにしても待ったなしで、平成24年度の武道、ダンスの必修化が決定し、この武道、ダンスの導入が、当市の中学生にとって教育活動の一環として効果を期待しております。

それでは3点目の防災教育に移ります。

3月11日の東日本大震災によって、我が国の防災意識の変革が求められる。今、教育現場でも原発を含めた防災教育の実践の運びとなっております。

昨日も群馬大学の片田教授のお話が出ましたが、三陸地方では、防潮堤を整備したことで、かえって大人の危機感が薄れたとのことを指摘しております。子どもへの教育を通して、大人の意識が変わることへの期待感を強調しておりますが、市としてこの防災教育に対して、どのようなスタンスをとるべきか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

子どもたちの学校生活等が安全に実施できるということは、学習に先駆けて大変大切なこと、そんなふうに考えております。教職員には防災教育講演会等で危機意識を高めていただき、もって各学校の防災教育、もう一度指導の中身を見直していただきながら、その学校、地域に合った防災教育を実施していかねばならないと考えておりますし、あわせて地域と協力した地域ぐるみの防災体制を整えていく必要があると、そんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

昨日、課長は答弁の中で学校の防災教育に対して、たしか鈴木議員さんの指摘だったと思いますけれども、磯部小学校と根知小学校が活発にされていると。私はかつて糸魚川市で実践されました日本火山防災フォーラムということがよく記憶にあって、そのときに、たしかあれは上早川小学校ですか、あのような立派な研究発表といいますか。実はトップダウンというか、そういう形ではないんですけど、各学校で防災教育を授業の中に取り入れていただいて、それから皆さんの発表会といいますか、そのようなことも大変効果的であるかと自分は考えているんですけど、そのことについてどのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

子どもたちが防災ということについて意識を向け、みずからの命をみずから守るという観点から、糸魚川という地域をよく知って、防災計画を立てていくということは非常に大切なことだと思います。

こども課としては、子ども一貫教育基本計画の中でジオパーク学習のところに、ジオパークを学習すると同時に、そこに潜む危険な部分も学習をしてもらうようにしております。また、今作成をしておりますジオパーク副読本の中でできるだけわかりやすく、この自然災害についても子どもたちに、基礎知識として学習してもらうような形で編集を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

先日、課長の答弁の中で確認したんですけれども私の勘違いで、実は磯部小学校においては危機管理システムということで、大地震防災計画による災害発生時のアクションプランというのを学校側から提出させていただきました。

それで私が問いたいのは、さまざまなプランがあるんですけど、学校は大変やる気になっているんですけど、自主防災との兼ね合いが全然わからなくて、地域の売り方をわかっていないみたいなんです。そこら辺を今後どのようにし、学校に。自主防災のすべてが、市内で完結したわけでもないんですけど、どのようにして学校現場の人たちにアプローチしていくか、そのことについて考えをお知らせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

今の点につきましては、やっぱり学校が中心になりながら、地域の自主防災組織と連絡をとりながら一緒になって、学校での子どもの避難訓練もそうですし、地域での生活の中、あるいは登下校の中での避難の仕方等について、一緒に考えていく機会を持っていくことが非常に大事かと思えます。そういう意味で、学校から地域の防災組織のほうへ働きかけていってもらおうよう各学校へは指導してまいりたいと、そんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

私が申すまでもなく、あの3月11日の東日本大震災を授業でどう扱い、子どもたちが何を学ばなきゃいけないか、そうした問題意識から教育委員会が独自に防災教育教材を作成する必要が指摘されているが、現在の市の考え方を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

子どもたちにとっても、先生方にとってもわかりやすい、しかも今後役立つ資料というものは、確かに必要だと思えます。しかし、なかなかその編集となると難しい面もございます。どんな形がいいのか検討してまいらなければならないと思えますが、とりあえず今の時点では県の発行している一番わかりやすい、小学校（低・高）、それから中学校向けの資料を使いながら基礎知識を学習をしている、そういう状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

東京都の教育委員会の例を紹介いたします。

11月、高校の履修科目、保健の中で、学べる防災教育の補助教材を作成し、すべての高校1年生と教員に配布されたと聞いております。都の教育委員会は、自分の身を守るだけでなく、周りの人を助ける行動がとれるようになってほしいとの考えであります。そのことについて、今後どのように対応するか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

そういう作成が行われたということについては、非常に素晴らしいことだと思います。そういう手法とか、そういうことについて研究しながら、今後どう生かしていくかということも含めて考えていきたいと思います。

また子どもたちが、まず大切にしてもらいたいのは、自分の命を自分で守るということでありま。学校が行う避難訓練や地域で行う避難訓練も、ある想定の中でのものがございますので、そういう自分の命を守る姿勢とか、あるいはその動き方について学校では教えていかなければいけないなど、そんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

先ほど指摘しました3月11日の東日本大震災では、津波が来ることが予想されていながら避難がおくれて、多数の犠牲者が出たことは私が言うまでもございませんが、いわゆる教訓に行動力をつける防災教育を目標とする、このような防災教育をどのように考えているか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

自然災害の中で非常に大切なのは、例えば子どもたちが学校にいるときに的確な情報を得て、的確な判断をして的確に誘導するということが、非常に大事になるかと思。います。

例えば地震が発生して、津波が来るまでにわずか5分しか、あるいは10分しか時間がないときに高台まで避難することは、なかなか難しい状況であります。そういうときの判断等、情報を正しく判断していく教員のそういう訓練を積まなければならないなど、そんなふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9 番（久保田長門君）

先ほどの質問とちょっと重複するんですけど、防災教育を定着させるためには教材開発だけでなく、教員の研修を計画的に実施することや、あるいは学校での授業研究の積み重ねと同時に進めていくことが求められるが、この指摘に対して再度伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

教員の研修については、これはぜひ必要なことであり、来年度の市を挙げての教職員の研修の中に、職員の防災教育を取り入れてやっていきたいと思っておりますし、そのほか可能な研修、あるいは意識を高める研修を考えていきたいと、そんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9 番（久保田長門君）

それでは、4 番目の特別支援教育の中で、発達障害の子どもたちのかかわりについてお尋ねいたします。

なぜこの特別支援教育に対する基礎的な支援体制を改めるか。文部科学省の特別支援体制整備状況調査によると、特別支援学級や通級指導教室を使用する児童生徒の数の増加が続き、当系魚川市でも同じ傾向で、現状の見直し、あるいは発達障害のある子どもたちへ支援の質を高めるため何が必要なのか、何が求められているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

現系魚川小中学校では、現在、特別な支援を要するという一方で、その特別支援学級へ所属している子どもが78名ございます。そのほか通常の学級で学習をしながら、特別な支援を受けて学習している子どもも多数いると考えております。

そういう中におきまして、それぞれの子どもたちが自分の力を最大限に伸ばすために、私たちは教員としての特別支援教育についての指導力を磨いていく、そういう人材となることが、これからの学校へ勤めようとも非常に大切なことであり、教育を充実させる意味で必要なことと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9 番（久保田長門君）

現在市内では、5カ所の通級指導教室の対応できる教員人数が限界と、子ども一貫教育の中で示

されておりますが、現在何名で対応し、県が目指す適正数というのは一体何名なのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

現在市内では、通級学級が4カ所設定されております。その内訳ですが、能生小学校で25名がそこで通級しております。糸魚川市小学校では46名、青海小学校では27名、糸魚川中学校では19名という、そんな人数になっております。この指導に当たっている通級学級担当職員は、全体で4名というような形になっております。

どの人数が適正かということになると、これはなかなか難しい問題だと、そんなふうに思いますが、ただ、今のこの人数に対応していくためには学級担当者は、なかなか十分対応しきれないということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

私はこの子ども一貫教育の106名にわたってした計画を決して否定しませんが、日本一の子どもを育てるときに、このような状態で果たしてそれが、もう答えは出てると思うんですけど、それでよろしいんですか。また、そこら辺をどのようにして改めるか、その答えを教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

まず1つは、指導者の資質を向上すると同時に、その人員確保ということが非常に大切になります。やはり子どもに対応するときには、教職員の人数が要ということがあります。通級学級にしても、それから特別支援学級にしても、あるいは通常学級における子どもの支援も同じことではありますが、昨年度、お願いをいたしまして教育補助員を9名増員していただきまして、糸魚川市も25名の教育補助員を、各学校に配置させていただくことができました。そのために各学校では、特別に支援を要する子どもに寄り添ってもらって、今まで以上に充実した指導ができる。それでもまだ足りないというのが現状かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

平成23年4月に条例改正により、現高田特別支援学級ひすいの里分校が平成23年5月1日現在で生徒数が38名ですか、教員が23名。やっぱりそれだけしっかりした教員がついていただければ、このようにまだまだ市内に、ちゃんとしっかりとした対応した学校があるわけですよ。やっ

ばり普通通級学級とか、なぜ私がこのことを指摘したかと言いますと、もし発達障害のある子どもたちと教員のバランスがとれないと、どのようなことの弊害が学級内で生じるか、そのことをまず答えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

対処が十分でない場合は、その子どもの伸長を妨げるとともに、また、一緒に学ぶ子どもたち全体についてもいい影響を与えないことになってしまう、そんなふうを考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

全くそのとおりだと私も思います。

この通級指導教室が全国にも不足というよりは、教員が足りないわけなんですけど、学校の努力によって現状打開を試みる手法として、いわば通常学級と通級指導教室との中間の学習支援教室の導入を考えられるが、本市においては、このことについてどのような受けとめ方をしておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

今、議員がおっしゃったような組織については、まだ具体的な考えは持っておりませんが、ただ、現状では各学校の特別支援学級と、それから通常学級、通級学級も含めてですが、その子どもの状況に応じて、個人のニーズに応じて、どのぐらいの割合で、どの学級で学習するかということは、各学校で子どもの状況に応じて対応していただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

このような子どもたちを医療現場から見て、実際の症状へ対応が重視され、発達障害のある子へ支援の原則として、その中核障害を的確に把握し、2次合併症を起こさないようにすることが大切であると言われるが、ところが、この医療機関を訪ねる子どもたちは中核症状の指摘を求めてくるのではなく、いわゆる2次合併症の具体的な対応を求めてくる。このことを市は把握しておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

今、議員が指摘されますように、その症状によってはもともと持っているものとは違って、その生育環境等によって引き起こされた、いわゆる2次的な症状を示すのが非常に今問題になっております。そういうことがふえてきているということは、認識してるつもりであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

今挙げてます特別支援教育が進んでいる学級には組織力があり、言いかえれば学校力があるとも言われております。組織力が高いと各教員の持つノウハウを共通して、中でもすばらしい授業をした先生や実践している教育の取り組みを、全教員の前で理論立てて評価し学校で広める、この考え方について、今後、市内で実践することを含めどのように考えているか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

今、議員のおっしゃった考え方は特別支援教育だけではなくて、今、学校での教育の中心になっていようかと思えます。まさに特別支援教育の考え方は、そこから出てきていると。特別支援を必要とする子どもに対する指導は、みんなにとっても必要な指導ということで、各学校の中でそういう取り組みをしている、そういうふうに理解しています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

特別支援教育は特別のものでないという共通の認識が、永遠に求められます。例を挙げますが、千葉県船橋市立船橋小学校では、校長先生は次のように述べております。障害は、理解と支援で個性になると話され、学校全体でも共通理解がされてるそうです。

それでは、5点目の教師の世代交代を迎え、いわゆる若い教師を育てる喫緊の課題がありますが、校内研修（OJT）に取り組んでおられますが、なぜこのことを指摘したかと申しますと、あと数年もしますと昭和50年代のように教師の平均年齢が極端に下がります。社会や保護者が、以前のように未熟な教員の成長は待ってくれません。教師力の向上を目指し、教育技術という目に見えるやり方だけにとどまらず、無形のあり方を教師力のコアと携え、若手職員に伝えていくことが重要と考えられる。市ではどのようにして教師力に関する研究を実践したか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

議員ご指摘のように糸魚川市は若手教員の非常に多い、20%が6年未満の教員で占められております。その教員の指導力を高めるために教育委員会としましては若手教員、特に新採用から2年、

3年目の教員について特別に、個別の研修会を年間持って、特に教科の指導力と、それからもう1つは学級を運営する力と、その2つを中心にしながらグローアップ研修というのを実施しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

教師力の向上として、授業力を育てるために現場の教員が研修に役立てるようにワークショップ型の授業力育成プロジェクトを、いわゆる教育センターで開発する必要があると考えられていますが、このことをどのように受けとめるべきか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

ワークショップ型の研修というのは、自分の意見をいろんな人から聞いてもらいながら、ともに語り合っ方向を見出していくという意味で非常に有効な方法だと、そんなふうに考えております。

今、各学校の校内研修についても積極的に取り入れられ、また、さまざまな研修の中でも、その手法が取り入れられております。ぜひそういう手法を取り入れた形で市で実施する研修も進めていきたい、そんなふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

校内研修（OJT）で若手を育てる人材が必要であり、OJTは監督（校長）を中心とし、いわゆるコーチ、副校長や教頭の助言を受け、実質的にキャプテン層、教務主任や、あるいは研究主任が担うが、OJTトレーナーとしての研究に励み、教師力を高める必要があると言われますが、このことについて、このような手法を市はどのように推進したか、また、今進行中であるか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

若手教員等の校内の授業実践、あるいは子どもの理解、あるいは保護者との接し方等の研修を含めて教師力と考えますが、それらの研修については若手教員が自分で目標を定めて、それについて校長、教頭の指導を受けながら研修をしていくという形をとっております。

また、各校内には研究主任がおりまして、定期的に授業を見て指導するという形をとっています。

先ほどおっしゃったような名前では呼べるかどうかはわかりませんが、それに近い形は校内ではとれていると、そう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

今、課長より報告がありましたわけでありますが、否定はしませんが、これ現実の話です。ところが現在の状況は校内研修や教育委員会の、課長も述べておられましたけど、年次別研修会などの機会があっても、個人の資質と自己研さんへの意欲にゆだねているという考え方が大きいことではありますが、人材育成を組織として行うという意識が低い。否定するような意見なんですけど、このことについてどのように受けとめますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

教育委員会及び学校内でいろいろ研修が組まれておりますが、研修の中身をどれだけその教員が身につけていくかというのは、やはりその教員が子どもと接するときの楽しさだとか、喜びだとか、そういうものを味わってもらって指導者のやはり責任は、かなり大きい部分があるかと、そんなふうに思います。基本的には、個人のその研修意欲を高めるということが非常に大事だと、そう思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

このようにして文科省が示す学校が変わる、教師力の向上を目指した施策の展開を強く望みます。私が指摘している組織型支援を行う、例えば学校経営系や授業研究系などの伏線型のキャリアコースと、またもう一方、教職員みずから示す教職員像、いわゆる長期的な視野に立って経験し、対峙し、3年以内に経験したい職務や、あるいは将来に向けて自分が身につけたいスキルなど、キャリア開発仕様書としてまとめて提出させることも非常に大切かと私は思います。教職員自身による目標管理を、どのように進めていくか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

各学校では教員評価という方法を使いまして、校長がそれぞれ教職員一人一人に目標を掲示をさせ、その目標に対して自分がどういう努力をするかということをして1年間3回、途中でチェックをしながらその成長を図っていくという、そういう制度を実施しております。それらを有効に活用しながら、特に若手職員の指導をしていくことが重要かと思っておりますし、また、各学校では学年部等を組んでいますので、学年主任を中心にしながら、組織的に業務等も含めた指導をしていくことが大事かと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

私のきょうの質問の中で、採用される教科書の採択について質問させていただきましたが、今、実際には採択の折、議論が形骸化している地区も少なくないとされております。事務局案を教育委員が追認するだけの教育委員会も散見されると聞いております。

また、教員に対して政治的中立を求めたことは、今、教育界では子どもたちに対し規範意識の低下や、特に家庭教育を大切にすることを叫んでおられます。教師みずからしっかりとした法を守っていただき、糸魚川市も市長が示されたような、上越市に負けないような教育を行っていただき、それが私のきょう質問させていただいた本題であります。

これで私の一般質問を終了いたします。どうもありがとうございました。

〔「議事進行、議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後2時34分 休憩

午後2時34分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

新保議員。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後2時34分 休憩

午後2時35分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

ほかに関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認め、以上で久保田議員の質問が終了いたしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

新保議員。

26番（新保峰孝君）

議会改革の一環として、議員の発言が会議規則等に基づいて議会の品位を保持するものでなければならぬというふうに思います。議会でも議会改革に取り組んでいるわけでありますから、そういう点で、ぜひ推進していかなくちゃならぬ。

そういう立場で今の久保田議員の発言の中に会議規則の第144条、この点にかかわる問題があったんでないかと。発言の一般質問の中で「思想教育が行われていると」、そういう断定された言い方をされた部分があったと思うんですが、これは不適切発言でないかなというふうに思います。

どこが思想教育なのか、そうした事実がなければ削除すべきだというふうに思いますので、この点をはっきりさせていただくと、そういう点で議会運営委員会で検討していただきたいと、このように考えます。よろしくをお願いします。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩します。

再開を3時とさせていただきますと思います。

午後2時37分 休憩

午後3時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

ただいま行われました新保峰孝議員よりの久保田長門議員の一般質問中の発言に対する修正の動議につきましては、ただいま休憩中に議会運営委員会並びに発議者、また、質問者等のお話を聞きました。

その結果、結論から申しますと、修正には値せずという結論に至っております。それぞれ主観の中で述べ、また、一般質問も答弁側との会話の中で成立していることから、あくまでも一般論的な中における久保田長門議員の主観に基づく発言であり、修正には至らずということであります。その結果、議会運営委員会は、正規委員会として開催はせず、その辺の意見の確認をただけということで閉会といたしましょうか、流れております。

また、発議者に対する新保峰孝議員に、この件に対する議長の考え方をお伝えしたところ、それで納得したということですので、今回の発議につきましては、これにて終了とさせていただきますと思います。

新保議員につきましては、これにご異議ございませんか。

26番（新保峰孝君）

はい。

議長（古畑浩一君）

では、ご異議なしと認めます。

それでは、引き続き一般質問を行います。

次に、古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。〔8番 古川 昇君登壇〕

○8番（古川 昇君）

8番、市民ネット21、古川であります。

事前通告書に基づきまして1回目の質問を行います。

1、第5期介護保険事業計画について。

平成24年度の事業計画から団塊の世代が高齢者の仲間入りとなり、この3年間で高齢者は増加の一途を辿ります。高齢者が増えれば当然介護認定者も増えると考えられます。その延長上には制度そのものが危うい状況にあると思います。今求められているのは介護の安心であります。高齢者の保険料負担も限界に近づきつつあると思います。早急に解決をしなければならないことは、財源の問題がありますが、公費負担の拡大であろうかと思えます。そして介護予防と介護に繋がる病気の早期発見であります。

そこで以下4点について伺います。

- (1) 第4期事業計画の成果と次期に引き継ぐ課題について。
- (2) 要介護者生活実態ニーズ調査と一般高齢者生活実態意識調査の結果と評価について。
- (3) 第5期介護保険料の内容と減額策について。
- (4) 3大疾病に陥る危険予防策の徹底とその取り組みについて。

2、糸魚川市ささえあいプランの第2期の取り組みについてであります。

平成18年4月から障害者自立支援法が施行されて第1期の事業計画が実施され、20年度で見直しを行い、現在第2期の最終年度にかかっております。障害の有無にかかわらず誰もがお互いに尊重しあい支えあう共生社会を目指して、地域社会の中で自立した生活を営まれることを目的に実施されております。多様な変化の中で課題も少なくないと同っております。23年度の最終段階に向かっていることから、以下の点について伺います。

- (1) ささえあいプランの進展状況についてであります。
- (2) ささえあいと自立の地域生活に関連してであります。

相談支援や情報提供支援について。

施設・設備の充実支援について。

就労支援・雇用促進について。

地域での自立生活支援と心のバリアフリーについて。

- (3) 次期計画の考え方と目標について伺います。

3、糸魚川市における放射能の影響・対策についてであります。

3月11日の原発事故以後、放射能汚染は福島県にとどまらず、周辺及び関東圏に大きく及び、最近では沖縄県でも検知をしたとの報道もあり影響は全国に拡大をしております。汚染の影響の中でも特に食材について不安感が強まっております。新潟県は9月16日、県内の学校関係の給食食材に放射性物質が含まれていないかを検査する方針を出しました。検査機器7台を購入し、3地区教育事務所に配備をして厳しく判断していくとの考えのようであります。県内でも母親や保護者、女性が中心になって影響を話し合い、活発に活動していて自治体要請も行われていると報道されています。

そこで以下5項目について伺います。

- (1) 放射線の当市における調査・市民への情報提供の現状は。
- (2) 保育園や学校などの給食の食材に関しての影響調査について。
- (3) 乳幼児・子ども・母親・妊婦さんへの情報提供について。
- (4) 園、学校、行政への保護者からの問い合わせとその内容について。
- (5) 原子力発電所との防災協定を結ぶ考えはありますか、お伺いをしたいと思います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

古川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、五十嵐議員のご質問にお答えしたとおりであります。

2点目につきましては、要介護認定者では介護が必要になった理由として、生活習慣に起因する疾病、高齢者による衰弱、認知症などを挙げており、特定健診、健康づくり、介護予防事業の取り組みの必要性を認識いたしております。

また、一般高齢者では高血圧を挙げた方が多く、食生活改善や適度な運動を含む介護予防事業の必要性を認識いたしております。

3点目につきましては、現時点の試算では、サービスの利用が増加していることから、保険料の上昇は避けられない見込みであります。

4点目につきましては、がん、新疾患、脳血管疾患に加え、糖尿病、精神疾患の5大疾病の予防について、健康いといがわ21の運動と食生活など6つの分野別の取り組みを重点的に進めてまいります。特に、疾病の早期発見・早期治療のため、がん検診や特定健診の受診率向上を図ってまいります。

2番目の1点目と2点目につきましては、まとめてお答えさせていただきます。

1つ目の相談支援につきましては、月1回開催してある相談支援会議において、関係機関で情報共有と解決に向けた支援を行っており、徐々に相談支援体制が整ってきております。

情報提供支援につきましては、視覚、または聴覚に障害のある方に広報紙の読み上げ、録音CDの配布、手話通訳奉仕員及び要約筆記奉仕員の派遣を行い、情報提供の取り組みを進めております。

2つ目と3つ目につきましては、ワークセンターが整備されたことにより、一般企業への就労に結びつく方が出てきております。

4つ目につきましては、相談内容に適切に対応し、各種の障害福祉サービスを利用するなど、自立した生活が送れるよう支援をいたしております。

また、心のバリアフリーにつきましては、ボランティアの育成や市民の障害に対する理解を深める取り組みを行っております。

3点目につきましては、第2期計画の基本方針を継承し、ささえあいと自立の地域生活の実現を目指しております。

障害者の自立には生活面、金銭面での自立がありますので、入所施設から地域生活への移行や、

福祉施設から一般就労への移行を目標に取り組んでまいります。

3番目の1点目につきましては、市内保育園や幼稚園、小中学校の8カ所で、月に1度、大気中の放射線量を測定し、県が実施してある農産物等の測定結果とともに、ホームページや広報でお知らせいたしております。また、12月1日には市民を対象に放射線講習会を開催し、放射線について学ぶ取り組みを行っております。

2点目につきましては、鈴木議員のご質問にお答えしたとおりであります。情報収集に努め、安全・安心な給食の提供に努めております。

3点目につきましては、乳幼児健診、妊産婦及び乳幼児訪問などの機会において、不安や疑問の解消に努めております。

4点目につきましては、園・学校の給食に使用する食材や、牛乳の放射線量についての不安などの問い合わせが数件あります。

5点目につきましては、新潟県内の市町村による原子力安全対策に関する研究会において、協議、検討中であります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

○8番（古川 昇君）

それでは、2回目の質問に移らせていただきます。

この4期の事業計画の中で大きく貫かれていた点、これは4期の中に書いてあるわけですが、3つくらい分けばあったかと思えますけれども、1つは介護予防、それから在宅介護の問題ですね、それから認知症の高齢者の方々をどう支え合っていくか、大きく言えば、そういうふうに分かれていたかと思えます。

高齢者が多いとともに機能の衰えが発生をして、介護を必要とすることは、当然のことだというふうにあります。健康の方はその健康状態ですね、ずっと長く持ち続けていただければいいわけですが、介護の軽度の方は機能回復、あるいは軽い症状の維持を保っていくための重点策である、この介護予防の充実ですね、それから推進、これがあったかと思えますけれども、この課題は、この4期の中で本当に成果を上げてきたのかどうか、考えをお伺いしたいと思います。

議長（古畑浩一君）

議長として再三申しておりますが、答弁に当たっては質問の趣旨をよく理解して、要領よく、簡潔に質問に答えるよう強くお願いを申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

第4期につきましても、引き続き在宅介護の課題を乗り越えるために努めてまいったところでご

ございます。

特に先ほど申されたとおり、介護予防事業につきましては各地域での元気なお年寄りの方に対する1次予防事業、それから介護にならないための2次予防事業、それから要介護になった方々への機能訓練等で努めてまいったところでございます。

また、ショートステイとか小規模多機能とかという地域での必要な施設整備につきましては、第4次の後半になりましたけども、徐々に施設整備が整ってまいっておるという事情でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

今る述べていただいたんでありますが、要介護、それから一般高齢者、特定というふうにそれぞれ分けて予防されたんだと思いますが、私はこれの1つずつ、それぞれ第4期の中で考えていたような効果が上がったのかというふうに私はお聞きしましたので、その点だけお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

介護度につきましては、なかなか数字に見えない点がございまして、地域で実施されている介護予防事業につきましては、参加された方々に大きな効果があるものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

それでは、この前、市民厚生で配られた資料でありますけれども、要支援1、2の数字でありますよね。これは少しずつ減少にあります、減少していると思います。予防効果があって、自立生活を営めるような状況に回復をされて数字が下がったのか、あるいは、それとも要介護1が若干ふえるようには見えるんですが、そうしますと支援1、2の方が、そっちに上がってしまったのか。こちら辺のところは、現場を見ないとわからないとは思いますが、最低そのくらいはやっぱり見ていただきたいなと思うんですが、この中身について、もう1回お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答え申し上げます。

介護度別の移動につきましては、軽くなって下がった方もおられますが、大体、高齢化に伴いましての重度化ということで、特に介護度5のほうに移動される方が多くございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

今お話しいただきましたように、下がった人と上がった人というって、それはどっちがよかったのかが、全くわからないわけでありましてけれども、要は、その1、2だとか、あるいは軽い方々に、本当に予防のこちらからの働きかけがあって、それで下がってきたんだというような実績がやっぱりないと、この介護予防というのはどこでやっているんだかというのが、全くわからないわけですよ。そこのところを私はお聞きしたいんですよ。下がっているという実績があるのであれば、そこはきちっと認めていただいて、効果があるんだというふうにお話をいただきたいと思います。もう1回お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答え申し上げます。

参加された方につきましては、非常に体が楽になったとか、いろいろとそういう効果のあることをお話として、あるいは記録としてお聞きしております。ただ、なかなか介護度の移動につきましては、それがもとで改善されたのかというのは、はかり知れない面があるわけですが、そういう教室等の関係者の記録等によりまして、そういうような感触を受けて、効果があったなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

それでは次期にかけてではありますけれども、こういうところをきちっとひとつ数字をもって検証していただければ、この出された資料も生きてくるわけでありまして。そういう意味でも、この数字が下がっているという根拠というようなものも説明できるわけでありまして、検証をきちっととっていただければというふうに思います。

それから一般高齢者の方、骨折だとかいろんなところの教室が開催をされているわけでありましてけれども、再三、私、これ聞いているんですが、人数は変わらないようなお話をされるんですが、メンバーは固定されているんじゃないかなという私の思いがあるんですが、その中身を少しお話しください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

介護予防の教室等に参加されている方々の固定化ということでございますが、確かにそのように今参加されている方につきましては、いつも声かけ合って参加されている方ということでは、固定されております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

このところも大変重要な取り組みでありまして、ぜひ新しい方を、どういうふうにしてそういう教室のところに参加していただくかということに、少し私は力を注いでいただきたいと思うんですよね。そうしなければずっと言われている、介護が上がっていくというのは、これはとめられないわけでありまして、ぜひともそのところを固定してよということではなくて、何とかこれを新しい人を入れてくるための努力はしていると。これを今度は、ことしはこうやってやろうと思ってるとか、そういうふうな考えはありますでしょうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

今期、第5期の計画をつくるに当たりまして、一般高齢者への聞き取り調査もしております。それから要介護高齢者の聞き取りもしておるわけでございますが、皆さん介護状態になる原因としましては、生活習慣に起因した疾病があるとかという、そういう原因も承知しておられるようでございます。

私どものほうでは包括支援センター、あるいは介護に関係する方々の協力を得まして、できるだけそういう介護予防教室事業のほうに参加するような働きかけを、これからも努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

地域のネットワークというの、この中に大切にうたってあるわけですが、このところも非常に重要だと思います。今言われたようなところもこの地域のネットワーク、こういう中で隣近所が支え合うというようなことが非常に大事かと思っておりますので、このところもぜひお願いしたいというふう思います。

それから2つ目の在宅介護の推進、これでありましてけれども、介護の施策が施設から在宅にシフトをされてくると、こういう方向の中で、要介護者のアンケートの中でも、これは住みなれた自宅で過ごしたいということが、はっきり希望としてあらわれているわけですが、訪問介護、あるいは訪問看護ですね、一層の充実。あるいは地域での通所介護施設の拡大、あるいは地域密着型サービスの事業所の開設等々たくさんあったんですが、安心して自宅の近くで介護が受けられる、在宅介護中心の方向性です。これが要介護者の希望と合致するような内容で、今回の4期の中で確立

できたのかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

第4期の期間中での居宅に近いところでの介護予防といいますが、そういう介護に関係する皆さんへの働きかけでございますが、近年、小規模多機能居宅介護ということで施設整備にも努めております。そういった点では、徐々にでありますけども、住む場所の近くでのそういう介護予防なり、あるいは介護のことに対する皆さんへの働きかけを進めているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

これは大きくそちらの方向に向いているということであります。

それから施設の整備も、かなり4期の中でやられたということでありますので、問題は、これからだろうというふうに思います。

それから認知症の高齢者の方々ですね、地域で見守る取り組みの充実ということも、大切なところであったかというふうに思います。認知症の方々の周りの理解、あるいはその地域、あるいは市民に対する認知症に対する理解度を浸透させるという取り組みでありますよね。これはいかがだったんでしょうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

認知症に対しましては、今回の高齢者のアンケート調査にも出てまいりましたように、やはり介護の状態になる原因としまして、認知症が進んでいるということでございます。そのためには認知症の対応型のグループホームの建設というような施設整備の対応もございまして、また、私どものほうでは認知症に対するサポーターの育成とか、そういったことで、地域を取り巻く皆様方の理解を得るための対策ということも進めてまいっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

今、少し所長さんから話が出ましたけれども、認知症サポーターですよ。きょうの午前中のお話にも少し出てきたんですが、このところ今現在こら辺まで来ると、これも皆さんで組織をすということの方針にも盛ってあったわけですよ。ですから、現在このところまで来るとい

ような状況があれば、少し教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

認知症サポーターということでございまして、認知症の方々への理解ということで、地域ぐるみで支援していかなくちゃならんだろうということでございまして、平成20年から教室を実施しております、現在までに1,269名ほどの認知症サポーター受講生がおられます。

皆さんもごらんになったかと思えますけども、6センチほどのオレンジのリングをつけてある方々、あの方々が受講した方々でございまして、これらの方々が地域におられることによりまして、認知症の方ご自身も、私を見守ってくれてるんだなというような安心感、あるいは相談等も寄せられておりますし、その受講された方につきましても、認知症の支援をするきっかけになるということで進めてまいっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

1,269名、大変多い方々がサポーターになってくださるということで、心強いわけですが、この方々の活動ですよね。こちら辺については、次の機会に譲りたいと思えますけれども、大変多くの方が活躍をされているということで、安心をしております。

それから次期に、第5期に引き継ぐ課題ということでありますけれども、これは大きく言えば介護保険料の上昇の圧縮ということ、これ一言で済んでしまうぐらいの大きな課題かと思えます。引き継ぐ課題としては、これがあるんじゃないか。

もう一つは、特別養護老人ホーム施設への入居希望者の待機者、これの解消ですよ。これが大きく変わりましたよというようなことが、恐らく私が今まで聞いていた中でなかったんじゃないかなというふうに思うんですが、この2点ぐらいを次の大きな課題として挙げられているのかどうか、こうだとは思いますが、お考えをちょっとお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

今期、5期の計画を進めているわけですが、当然、介護保険料の上昇を抑えるという努力は、いろいろと策定委員会の中でも進めております。

また、待機者に介護度4、5の方々が非常に多いと、119名という状態の中で、これからも特別養護老人ホームを地域の必要度に応じまして、施設整備をしていく必要があるだろうということを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

それでは、次の質問に移りたいと思います。

調査の関係ですね。これずっとお聞きをしてきたんですが、まだ出ていないという9月の段階でありましたので、ようやく出たということでもありますので、この中で先ほど少し回答いただきましたけれども、気になるのは収入と、それから生活が、経済状態ですよ、ここが一番の問題かと思いますが、ここら辺の回答はどのようになっていたか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

家庭での介護をされている方々の収入ということでございましょうか、ちょっとその辺が理解できないんですけども、具体的な数字については、今、申し上げる段階ではございません。今、集計中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

まだ集計で発表はできないという、まとまっていないということですか。わかりました。

そうしますと、介護されている高齢者の方ということでもありますので、収入は恐らく年金が100%近いんだらうというふうに思います。

それから経済的にどうかという質問でありましたけれども、これも次期の介護料の問題になってくるわけではありますが、今、生活の中で自分の収入に対して非常に苦しい、あるいは苦しいと感じるとか、たしか設問にはあったと思うんですが、その点については、全く集計になってないんでしょうか、お聞きをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

要介護認定者に対する調査の結果でございますが、現在の経済状況につきましては、苦しいという方が約2割、やや苦しいが約4割ということでありまして、苦しい方々が非常に多うございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

経済的には大変苦しい、6割の近い方ですね。それから一般高齢者の方々は、同じ質問なんですが出ていますでしょうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

今、手元には資料がございませんけども、大体同様の状態であろうかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

一般高齢者の方々は、もっと重要な生活の中身の問題が設問されていたかと思います。それは今出てないということであれば、また次回に譲りたいと思います。

次に移ります。第5期の介護保険料の内容と、減額策についてお伺いをしたいと思います。

提案されて、試算ということでありまして5,850円の提案であります。この内容についてお聞きをしたいと思います。

9月にお聞きしましたら、施設の整備拡充をすると保険料にはね返るというふうに再三言われてたんですが、その3年分の増設は、幾らぐらいこの5,850円の中に含まれているのか、おわかりでしたら教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

先ほどの一般高齢者の経済状況ということでございます。この方々もやはり5割に近いほど苦しいという状況になっております。

それから、今ほどの介護保険料のことしの第5期の根拠ということでございます。おっしゃるとおり1,000円を上回るような介護保険料の増加というのが、今計算されているところでございます。これにつきましては、今までの施設整備につきまして、第4期中の施設整備につきましては、大体400円ぐらいの影響があっただろうということでございます。これは第5期に關係して影響するところでございます。そのほかに、いろいろとサービス利用等を進めておりますので、そのことも含めまして、大体1,000円を上回るような介護給付額の増ということで見込んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

この制度が国の答申あり法の改正、あるいは指針、こういう弱点が整備されれば第5期ですよ、5,850円というふうに出なかったんじゃないかなというふう思うんですけども、一番の問

題は、給付と負担のバランスの乖離でありますよね。ここが野方図に上がっていくということになれば、幾ら盛ってみたって、これはどうしようもない話でありますので、ここで私、さっき経済のことを聞いたのは、負担する方々の年齢が、今言えば年金の収入でありますよね。それから今言われているのは、年金を下げるというふうにもまた報道もされているわけですよね。そうすると収入は減るわ、負担は上がるわということになりますと、大変な状況に高齢者の方々は追い込まれていくわけでありまして、この中で、少しでも減額策をやってみるということを経済の段階で回答をいただいたんですが、減額策は、具体的にはどんなものが盛り込まれたのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

基準額が安いにこしたことはないわけですが、どうしてもやはり総合的な給付額が伸びております。そんな中で今現在、第4期では6段階でございますが、この段階を8段階に引き上げることに よりまして、割と高額な負担されている方を若干上げさせてもらう。あるいは低所得者の方の率を、平均が落ちるわけでございますので、率は同率にしましても、その分、少し軽減されるということで、多段階化の軽減策を練っているということでございます。

あと第5期の事業計画では介護予防教室とか、あるいは健康づくり事業を進めることによつての、給付額の低減化ということに努めてまいりたいというふうな考え方であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

いただいた資料の中に、多段階化というのは小さい文字で書いてありましたんで、うっかり見落とすところであったんでありますが、今言われた8段階ですよね、これは3を2つ、4を2つですから合計10になるわけですよね。これは平準化ということでは、それはいいかもしれませんが、一番上の方、2.3%いるわけですが、これは倍になってるわけですよね、1万1,700円ですよね。こういうふうな高額に上がるということを経済の8段階にしましたんで、これが減額策だというふうに言われてもどうかと思うんですが、もう1回お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

給付額の上昇に伴いましての負担の財源の確保でございますが、半分は国県・市からの税金の投与でございます。あと半分につきましては、今現在では65歳以上の方から2割をいただいているわけでございますが、どうしてもこの金額の総合的な数字については変わらんわけでございますので、あとどういうふう負担し合うかという問題でございます。

これについては今現在、最高6段階が1.5倍でございますが、もう少し負担していただくことによって、全体的な基準額が引き下がるだろうということで、できるだけ低所得者の方々の配慮に努めたいということで、このような試算をしておるところでございます。

なお、これはまだ今計算中といいますか、介護保険の計画査定中でございますので確定ではありません。今のところ、私どものほうの試算でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

財源の内訳であります。それぞれが50%・50%でやってるわけでありましてけれども、今言われた、抑えるというところにそれを言われると、要は1号被保険者を、21に恐らく上げたんだらうと思うんですね。そうすると、高齢者のほうに負担をかけたということになるわけですね。これに関してのご答弁を、もう1回お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

65歳以上の第1号被保険者の方の負担につきましては、今現在20%でございますが、1%上げて21%に計画しているということでございます。それは間違いございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

年金も下がる、生活が苦しいというふうによくの声があるのに、それにまた1%上乘せするということになると、どうも納得がいかないところもありますが、次に移りたいと思います。

これの中で出されているのを、1つだけ聞かせていただきたいと思いますんですが市町村準備基金、これは存在をしますか。1つだけこれ聞かせてください、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

基金はございます。ただ、第5期の軽減化に対する基金の使用ということでございますが、新潟県は今まで基金を使う度合いが高かったということで、第5期の介護保険料軽減に対する基金の使用は今考えておりませんし、無理だということを聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

財政安定化基金って、これはもう県のほうでだめっていうふうにお聞きしましたが、ただ、第4期の中で見込額ですよ、一部を市でも積み立てているのかなというふうに聞いたんですが、準備基金ないということでございますので、それは減額策にはならないということがはっきりいたしました。

この3大疾病というふうに書きましたが、市長のほうからは5つというふうに話がありました。確かにそうでありませうけれども、こういうふうにつながっていかないための取り組みでありますよね。このところはやっぱり用意周到に、それこそ一生懸命やってこられたんだろうというふうに思いますけれども、ここのところの取り組みですよ、少しお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

3大疾病、今、市長は5大疾病とお答えしました。当市の市民の皆さんはどのような疾病にかかっておられるか、まずご説明したいと思います。これは国保の医療費分析でございます。21年度の数字でございますが、やはり第1位はがんです。中でも大腸、肺、胃の順でございます。それから2は循環器系、これは高血圧、心疾患、脳血管疾患、3位が消化器、これは歯科と胃、それから十二指腸疾患、4位が内分泌ということで糖尿病ということで、特に当市の医療費の状況を見ますと、高齢化が高いということと、それから生活習慣病、それからがんが多いということで、特に生活習慣病におきましては慢性化しまして、それから重症化して脳梗塞等を起こすという現状でございます。

これの対策としまして、今、市長が述べました健康いといがわ21を中心に、取り組みを進んでおるわけでございますが、健康いといがわ21の最終目的というのは、健康寿命の延伸ということでございます。やはりピンピンゴロリという表現もございませうが、これがやはり介護予防計画というようなものでないかと思っております。

特に18年から実施しておるわけですが、運動、それから栄養を中心に6分野のうち2つを特に取り組んでおまして、運動につきましては18年度、いろんな教室があったわけですが、実数人数で481の方が参加していただいて、8,195人の述べ参加者。それが22年度では、実人数が1,460人、延べで2万9,588人と。今回、見直し作業をしておりますが、この見直しに当たりましてアンケート調査を実施しております。

当初と今回、同じようなアンケートだったんですが、運動する人がふえておると、運動を心がけておると。食生活では、やっぱりバランスのいい食事をする人がふえておると。そんなような状況で、徐々にではありますが進展しておるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

健康を保って、疾病のところまで至らないとすれば、やっぱり今言われたような長野県のピンピンコロリ、一生懸命元気で、最後にはという話ですよ。

それから上勝町というところ、徳島県に去年、行ってきたわけでありましたが、あそこはもう働き続けて、働けなくなったらということなんですよ。ですから、そういう働いていくということの意欲を持って、病ですよ、そういうものに打ち勝っている。本当に医療費も少ないところでありましたけれども、糸魚川市もやっぱりそういう方向に向かってやっていただきたいというふうに思います。

次の問題に移ります。

ささえあいプランのことに對して、少しお聞きをしたいと思います。

今、2期目に入っているわけでありましたが、この中で大きく取り上げられているのは、障害者の皆さんが地域で自立して生活をするというところが、このささえあいプランの中で求めている大きなポイントだろうというふうに思います。この達成すべきポイントですよ、2期の中でやっぱりどれだけやられてきたのか。大枠で結構ですので、少しお話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

地域での支え合いということでございまして、広範な活動をしとるわけでございますが、中でも相談支援会議ということで月1回進めておりまして、情報共有と解決に向けた支援を実施しております。

そのほかに障害者の方々への情報提供ということで、視覚障害の方、あるいは聴覚障害の方に、それぞれの器材を配布いたしまして、情報の提供ということで努めてまいっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

この中でも特に大切なのは、相談支援という充実ですよ。このところが掲げられているんですが、現在は支援センターこまくさのほうに委託をされてるというふうに伺っておりますけれども、ここの運営上、問題は今のところは発生をしてるような状況はないのか、少しお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

こまくさでの相談受け付け、日々していただいているわけでございますし、それぞれ障害者の方々のいろんな悩みとか、それから就労的な相談事については、異なりますけれども、日々対応してるといってでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

連携ということでお話をいただきまして、大変うまくいってるということではありますが、今の南寺町の場所も大変いい場所であるわけでありましてけれども、今度はここに新幹線ができて、南のほうに大きな道ができると非常に交通の便、こっちはよくなるわけですよ。そうしましたら、あそこではなくて市のところのどこかに、この支援センター、相談のものを入れるようなお考えがあるかどうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

今、そういうような支援センターがあるわけでございますが、具体的な計画につきましては、今現在ありません。今期、第3期の計画の中では、今現在の整備された施設をもって、あとスタッフの拡充ということをもって、支援に当たっていきたいというような考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

わかりました。スタッフの拡充ということであります。

それから、次の質問に移りたいと思いますが、施設設備の充実支援についてということになります。これは私ども市民厚生で、メモリアルホームみずほにお邪魔をしたときのことであります。

その中で施設を拝見をして、今の中におられる方のお部屋を見せていただいたんですが、入り口が非常に狭くて、中も3人か4人というような体制で生活をしておられるんですが、あの中にいらっしゃる方々が非常に高齢に近づいてきているという、今の段階にきてるわけですよ。そうしますと、介護という問題が目の前にぶら下がって、このことをどういふふうに解決をしたらいいか。

お話を聞きますと、ずっと一生涯もうつき合っていくんだと、支援をしていくんだというふうな考え方をお持ちのようでもありますけれども、建物、あるいは設備ですよ、こういうものを市が支援して、あそこのところに介護というような問題、いろんな問題が出たら支援できるような体制があるのかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

施設に入所されている方々への介護でございますが、障害者自立支援法に基づきましての介護ということで、入所者の支援に当たっているということでございますし、これからもそのような形態でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

設備拡充等々問題が出たときに、糸魚川市として、行政としてご支援ができるのかどうか、そこをお伺いしたかったんであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今のみずほ等の施設から例えば年をとって、すぐにじゃあ特養みたいなところに移れるかということになると、その点を聞いたときには、なかなか難しいというお話を聞いてまいりました。

そういった中で、今後そういう事例がふえてくるんだろうと思います。その中で、みずほ等のそういう施設にどれだけ市が支援できるか。これは施設と今後十分に話し合いをしながら、市ができる範囲内で支援をして、障害者の方々が、安心して住める形にしていかなければならないという認識は持ってきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

それから、ワークセンターにしようかとあります。これは就労ということで、きのう雇用の問題もお話をいただきましたけれども、ワークセンターにしようみの方、就労する、あるいは雇用して新しいところにお勤めになるということもいいんでありますけれども、願わくば一番いい方法は、皆さんで1つは会社組織みたいなものを興して、そこに採用するというようなことがベストだというふうにお話になっておられましたけれども、ここのところのお話を聞いて、お手伝いができるのかどうか、今の考えをちょっとお聞かせをいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

会社の設立ということでもありますけれども、やはりこういった今の経済情勢で、すぐにそういう仕事がたくさん見つかるか、経営ができるかということでは、非常に厳しいというふう感じてき

ました。そういった中で、今すぐじゃあそういう会社を設立できるかというのは、なかなか難しい問題なので、これもやはりそういう施設の方々や我々庁内でいろいろ検討する中で、どういった方法でそういう人たちのまず仕事をふやしていくのか。そして将来的には、いろいろな会社へ出ていくのか。会社を設立できれば一番いい、それにこしたことはないんだけども、非常に難しいというふうには私は感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

この点については、あそこで障害者の方々働いて工賃の確保ですよね、ここが一番のやってるところだというふうに言われております。年金プラス工賃ですよね、これで10万円を目指しているというふうに言われております。

この中でやっている事業の中を見ても、1つは農業の問題があるんですね。今、農業は非常に高齢者の方が多いということと放棄地が多い。そこで今、お米をつくっていらっしゃるんですけれども、こら辺のところには1つの解決の道があるんじゃないか。

富山に1つあるんですが、ワン・ファーム・ランドという、ここのところでは障害者の方々が非常に大規模に農業をやっておられるという1つの例がありますので、こういうところの取っかかりを市のほうでも考えていただくようなことができるのかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

確かに農業というところに着目しているところは、非常に私はいいと思っていました。ただ、お米がいいかどうかとなると、今みたいに単価と消費量が減っていく中で、なかなか厳しいだろうと思っています。じゃあどうするかと、これはいわゆる指導者、あるいは技術者の確保という点が課題にはなるかと思いますが、例えば施設園芸とか、あるいは今、ワークセンターにしうみで取り組んでおります地鶏の育成といいますか、そういった形で、より付加価値の高い農業であるならば、そういう収入を得られると思っています。でも課題というのは、やはりそういうものを技術的に指導できる、あるいは販路を確保できるという、そういった支援がなければ難しいというふうには感じてまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

確かにそうなんです。ここのところで就労を一生懸命やればやるほど、支援者の方がふえるんですね。それをふやさない限りは工賃も上がっていかないという、こういう矛盾が出てくるわけですけれども、ですから皆さんはそういう矛盾を抱えつつも、やっぱりここで何とかしたいという希望を持っておられますので、それで一生懸命働いているというところがあります。このところ

は、また次回で、皆さんの支援のお話をお聞きしたいというふうに思っております。

ハード面のこと、あるいはバリアフリーのこともありますけども、時間がなくなってしまいましたので、次期のところで、またお話をいただければというふうに思います。

1つだけお聞きしたいのは、この3年間でハード面、要は地域の環境ですよね、バリアフリーということなんですが、どれだけ進んできたのか、ちょっとお話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

駅前もなっておりますし、いろんなところもなってきたんですが、なかなかないというところがありますので、そこをお聞きしたかったんですが、そこはじゃあやめて心のバリアフリーということになりますと、大変大きな問題になるんですが、行政の側として、ここをどういうふう呼びかけ、どういうふうに取り組んできたのかということ、少しお話をいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

障害者に対する施設のバリアフリーということでは、進めておられるわけございましょうけれども、心のバリアフリーということございまして、ボランティアの育成によりまして皆さんへの働きかけをするという支援もございまして、それからイベントを通じて、障害者への理解をするということでの、いわゆる障害者に対するバリアフリーということ、心のバリアフリーの対策もっておりますし、皆さんもそういうイベントに対して理解をしまして、参加していただいております。これからもそういうふうにして、続けてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

心のバリアフリー、共生をしていく、あるいは私らが皆さんと一緒に生活を地域の中でしていく。これはグループホームということもありますけれども、ここのところがやっぱり一番の問題だと思うんですね。ここは先ほど言われましたけれども、とにかく力を入れて市民の中に宣伝なり、あるいは情報の提供ですね、これをきちっとやっていただければというふうに思います。そこは強く皆さんにお願いをしておきたいと思います。

次に移ります。3つ目であります。

この中で放射線の問題でありますけれども、今の提供されている状況を少しお話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

現在、市内8カ所の保育園・幼稚園、小中学校で月に1回測定をいたしております、それについてはホームページ、それから「おしらせばん」等でお知らせをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

8カ所は、きのうもお聞きをいたしました。その中でいつも不思議だなと思うんですが、1点だけお聞かせをいただきたいと思います。下早川小学校と青海小学校だけいつも高いんですね、これは原因は何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

この2カ所の高い原因は花崗岩がグラウンドに含まれておること、花崗岩については高い数値が出るということで学芸員にお聞きして、確認をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

私も多分、岩か何かはどこかにあるんだろうと思うんです。それで石にこうやって当てると、石は自然に出るんですね。そういうところで多分この2カ所、高いんではないかというふうに思っておりましたけれども。それから、これは皆さんのところで、こういう原因じゃないかというのは明らかになっているんですか。確定してないから、そんなにはっきりは言えないかと思えますけれども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

この原因については、あえてお知らせはいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

各学校のほうには、つまり検査をいたしました各学校には、グラウンド整備の折に花崗岩をくだいたものを混ぜて散布した、あるいは整備した結果であるということはお知らせして、その旨、保

護者にも伝えてもらえるようにしてあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

安心ということであれば、処置をしていただいたということですので了解をいたします。

それから給食の食材に関してであります、特にこの点に注意を払っているというふうに思いま
すけれども、仕入れ先であります、これはどこかはっきりしてますかね。米、野菜、魚、牛乳、
肉ぐらいの関係で結構でありますけれども、通常使うものですがお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

幼稚園・保育園につきましては、給食のメニューにつきましては教育委員会のほうでつくって
おりますが、その材料につきましては、各園等で調達をしております。したがって、その調達の材料
につきましては、産地を業者の協力を得ながら記録する形でしております。

それから同様に小学校、中学校につきましても、地場産のものを使っているものもありますし、
いろいろなものがございますので、その都度、記録をするようにしてございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

記録をされているということですが、時々集約はしてないんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

生産地についての記録でありまして、その記録の意味は万一、情報でその食材の中から検出され
たというようなことがあったときに、その食材についての発表に沿って使用した食材について確認
をしたりするためにとっておるので、今の時点では、それを集約してどうこうという形では使って
おりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

私は管理者として、そこをきちっと集約をして、管理をしてないのかという立場でお聞
きをしたわけですが、もう1回お願いできますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

ちょっとご質問の意味がよくわからないんですが、要するに私としては産地がどこであったかというものを集約することに意味がないのではないかと。ただ、我々はどこから購入したものであるかをきちっと記録しながら、万一、情報で含むものがその産地のものから出たということになったときに、素早く手を打ちたいというために、今、記録しているというところでございます。

議長（古畑浩一君）

安全管理をちゃんとしてるというものを強調しないと。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

安全管理につきましては、出荷の段階ですべて出てるというふうな認識をうちのほうでは持っておりますし、また、このたび11月末に新潟県のほうから、食材について検査したいということでの情報が入っております。

それにつきましてうちのほうでも、過去に農産物の出荷制限をした8つの県がございますが、そちらのほうからの食材については検査をしていきたいなというふうに考えております。ただ、検査器材が来年度にならないと入らないというふうな情報も来ておりますので、入り次第対応させていただきたいと思っております。今現在、流通しているのは安全な食材だという認識を持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

問い合わせ等々が保護者からあったときに、安心・安全というところをどれだけ担保してお話しできるのかというところで私は伺ったわけでありまして、よもや例えば福島のもの、これは支援をしなければならないとは思いますが、子どもたちではなくて、やっぱりそれは大人が食べるということでは支援をしていいとは思いますが、今言ったのは安心・安全というところで、やっぱり集約をされていないんですかという立場でお伺いをしたわけでありまして。

それから乳幼児、子どもさん、これはそれぞれお話になっているということでありまして、1つ安心いたしました。

行政、それから学校、それから園等々に電話、メールですね、こういうものが数件というふうにお話しになりましたが、中身を少しお話をいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

報道等で、例えばどこどこ産の何々からどれくらい検出されたというようなことを聞いたけれども、心配であるけどどうでしょうかというようなこと。それから牛乳が一番多かったと思いますが、牛乳は安全なんでしょうかと。いろいろなところの産地のものが、一緒になってつくられているようですけれどもというようなことでの問い合わせが、数件あったということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

市長への便りという形で参っておるもので、災害地からのがれきの受け入れについて、拒否をしてほしいというような申し入れが七、八件ございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

皆さんは直接、そのことを受けられたのではないと思いますが、その報告があったときに、どういう気持ちになったかということで、3択であります。お答えをいただきたいと思いますが、今のことについて。

1番目、いつも心配して連絡が来る。市の取り組みを書いてご返事をするようにというふうに指示をされたのか。それとも、2番目であります。心配はごもっともだ。市の現状を書いてご返事をするようにというふうに、それに指示を出されたのか。3番目であります。市民の不安感はかなりのものだ。市民の皆さんの気持ちをしっかりと受けとめて、気持ちを込めてご返事をするようにというふうに。3番ありますけれども、どちらを気持ちで選んでご返事をなさったのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

やはりそういった放射能に対しては、本当に我々も心配もしておるわけでございまして、そういうことに関しては一切ないようにとらえていきたいと思っておりますし、しかし、我々といたしましては今いろんなものが来てる中においては、放射能はしっかりと検査して、それは受け入れない。そしてほかのものについては、それはしっかりと応援していきたいという気持ちをお伝えさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

古川議員。

8番（古川 昇君）

今答弁をいただきました。ただ、出された文書を見させていただきますと、時候のあいさつと、

それから市の立場が書いてあるのが出されておりました。私が今申し上げたのは、やっぱり市民の皆さんがそういうふうに関心されているところをしっかりと受けとめて、その気持ちを出して市民の皆さんに返すべきではないかというふうに思いまして、今質問をしたわけでありませうけれども、この出された文書を見ると、やっぱり市の立場だけあります。そういうところでは、もう少し市民の皆さんの気持ちをきちっと受けとめた形でのご返事を、ぜひお願いしたいと思います。

牛乳の問題も出されております。確かにその話はお聞きをしました。その方は牛乳を拒否をすれば、子どもさんがやっぱりその中で浮いてしまうというような心配、あるいはいじめに遭ってしまうのではないかという心配もありつつ、なおかつ、それでも牛乳はどうなんだということで電話をしたというふうにお聞きをしております。ご返事がこうだったんで、やっぱりそうではなくて、今どこの市民が心配してるんじゃないかと、糸魚川市民が心配してるということ、ぜひ市の皆さんも受けとめていただきたいということでお話をいただきましたので、そのことをお伝えをいたしまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

議長（古畑浩一君）

古川議員の一般質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

再開を4時20分といたします。

午後4時09分 休憩

午後4時20分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、吉岡静夫議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。〔15番 吉岡静夫君登壇〕

15番（吉岡静夫君）

吉岡であります。

質問通告によりまして、順番に6点をお願いをいたします、進めます。できるだけ要を得た質問にしたいと思いますが、若干、自信もありません。よろしくをお願いをいたします。

1、「一人暮らしの高齢者」、現状・推移・これからの見通し・対応。

6月定例会で「生活保護」という側面から、私、取り上げさせてもらいました。今回は、広く「一人暮らし高齢者」に視点を向けさせていただきます。

そこで、お伺いします。

(1)「一人暮らし高齢者」の構成分布・数など、国・県・市、どうなっているか。これまでの動き、あるいは今後の推移見通しなどがお示しいただけるものならいただきたい。

(2) 今後の課題としてどのようなことが考えられるか。

2、「JR系魚川駅前アーケード」改修工事の経緯・現況・見通し・対応。

駅前アーケードの改修工事は、老朽化に加え、電線・電話線の地中化、新幹線開業なども重なってのものとなっています。

そこで、お伺いします。

(1) 規模・体裁・工事費など、改修工事の概要はどのようなものか。

(2) 全体工事費に対する地元関係者の負担割合はどのようなものになっておるか。

3、東京電力柏崎刈羽原子力発電所内発生の貝ガラ処理問題。

このことについては、3月11日午前、議会で公表・公開され、時を同じくするようにして東京電力福島原発の事故が起こったのが同日の午後でありました。

今、原発問題は福島、柏崎に限らず全国・国民の問題として私たちに覆いかぶさってきております。

そこで、お伺いします。

(1) 公表・公開から9か月。柏崎市、柏崎刈羽原子力発電所からどのような働きかけがあったか。

(2) 糸魚川市、明星セメント株式会社として、柏崎市、柏崎刈羽原発に対し、どのような働きかけをしているか。

(3) 「安全協定」を始め、原発対応の動きは現在どのようになっているか。

(4) 原発対応・新エネルギー対応についてどのような姿勢で臨まれようとしているか。

4、「柵口温泉センター」の今後に関連して。

せっかくの「市民の健康・福祉の拠点」として永年地道に定着してきた「柵口温泉センター」が、今存続の危機に立たされています。

9月定例会でも取り上げましたが、せっかくの市民参加への動きも残念ながら頓挫。

そこで、お伺いします。

(1) その後の動き、対応はどうなっているか。

(2) 同施設のみならず同じエリア内の他の2施設を含めての対応はどうなっているか、現在。

(3) 同エリア内のみならず、市内の性格を同じくする施設についてどう対応しようとされるのか。

5、「糸魚川医療生活協同組合姫川病院」その後。

問題の本質は、市の関わり方にあります。市はもちろん、多くの市民も直接間接に関わってきた経緯があったことを根底に対応すべきだと私は考えます。

そこで、お伺いします。

(1) 建物に関しては、いわば無主物のような存在・扱いが続いており、盗難などの事態も起きております。このような状況も踏まえ、どう対応しようとされているか。

(2) 土地に関して、地代は全く入らないのに固定資産税は満額納めるという状態が続いております。法・条例・事務処理以前の問題として、これは今までもこういう問題を取り上げて、その都度そういう回答をもらってききましたけれども、行政上の手立てを何らか尽くしていくべきと考えるがどうか。

(3) 跡地・建物全体、あるいはエリア全体を考えた今後の対応策を具体的に打ち立てるべきだと考えるがどうか。

6、「パブリックコメント」の意義、取組姿勢

「民意を問う、確かめる、活かす」ために「パブリックコメント」が登場してきました。そこで、お伺いします。

(1) 最近例として「公民館問題」についての「パブリックコメント」の処理・対応がどのようになされ、これをどのように評価しているか。

(2) 同じく同「パブリックコメント」を実施して、そこから学ぶべきものがあったとすれば、それは何か。

以上であります。よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

吉岡議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当市、合併当時のひとり暮らし高齢者は1,851人で、65歳以上の高齢者人口に占める割合は12.0%でありましたが、今年4月では2,343人で、14.9%と増加いたしております。全国及び新潟県のひとり暮らしの高齢者数におきましても増加傾向にあり、今後の見通しも増加していくものと予測いたしております。

2点目につきましては、在宅で生活するための各種支援策の充実や、地域住民の相互の支え合いの強化が重要となってくると考えております。

2番目の1点目につきましては、田原議員、斉藤議員のご質問にもお答えしたとおり、新たに設置する予定のアーケードの規模などの概要は、事業主体の駅前銀座商店街振興組合が検討を進めており、市も関係機関とともに支援をしております。

2点目につきましては、組合として全体事業計画が未定であるとともに、国庫補助事業の申請もこれからのため、現時点では確定いたしておりません。

なお、アーケード解体工事費の負担率につきましては、おおむね組合が4分の1、国が2分の1、市が4分の1となっております。

3番目につきましては、排出自治体の柏崎市から当市に対して、区域外処理の協議書は提出されておられません。

4番目の1点目につきましては、正式に県に無償譲渡断念をお伝えし、地元等に経過の説明を行ってまいりました。

2点目につきましては、温泉センターの譲渡断念を踏まえ、改革の方向性について関係者と協議を重ねております。

3点目につきましては、各施設の置かれている状況等を踏まえ、適切に対応してまいります。

5番目の1点目につきましては、市の所有物でない物件について市が管理することは難しいものと考えております。

しかしながら、犯罪の温床となる可能性もあることから、糸魚川警察署に要請をし、継続的なパ

トロールを行っていただいております。

2点目につきましては、9月市議会定例会でお答えしたとおり、その土地や家屋等の収益の有無にかかわらず課税するものであり、税の公平性を保持するため、法令に従って課税せざるを得ない状況であります。

3点目につきましては、去る11月15日開催の総務文教常任委員会でご説明したとおり、電気配線や冷房施設ユニット等の盗難があり、現施設を活用するための改修費用が多額となることから、市としては現施設の活用は考えておりません。

6番目の1点目、公民館体制等の見直しの基本方針案のパブリックコメントでは、いただいた意見の内容は計画的に反映、または一部を反映するものとしたもので、今後、実施または検討課題としたものでありまして、そのように分類し、結果を公表いたしました。

2点目につきましては、パブリックコメントは市政における公正の確保、及び透明性の向上、市民の皆様から市政への参画促進、並びに信頼される市政の推進を図る上で必要なものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、関係する部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

この1番目のひとり暮らし高齢者といいますが、高齢化といいますが、いろんな形で各議員も取り上げられておられましたけれども、雑な言い方をしますけれども、いわゆる高齢化といいますが、こういった高齢化に伴う例えば介護の問題、要支援1、2、あるいは要介護1～5、こういうものはいわゆる重度化の傾向にある、カーブは右上向きの傾向にあるというふうに、極めて大ざっぱな言い方だけでも、そういうふうにとめていいのか。それと高齢者のみの世帯、こういったものもやはり同じくカーブとしては右上向きの形で進んでおると見ていいのか、ここをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

傾向の問題でございますが、やはり高齢化が進むことによりまして、要介護が進むということでございます。その中でも介護度の高い方につきましては、今後もさらにふえるだろうという見込みであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

ちょっと視点を変えて、この間ちょっと気になることがあったんですが、医療面での問題、医療対応というのは、この場合どういうふうにつながっていくんだろうかと、こう思うんですが、ちょっとその辺いかがですか。

もう一つ、じゃあ具体的に言いますと、医師の分布といいましょうか、充足度といいましょうか、これが新潟県の場合は1つ下がって、全国で言えば今47のうちの41番目だったのが、42になったということが報道されておったんですけども、それでは本市の場合は20市の10町村だから30市町村、これの中でどの程度のところに、さっき言った47のうちの42というような考えでいければ、いってるのかなというふうに思ったんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

きのうのラジオで、全国の県の順位が報道されましたが、その県の中の市町村の順位というのは、県のほうでまだ発表しておりませんので、これからなんですけど、当市はその中でも低いほうというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

重度化、高度化、支援、介護、こういうものがいってある。一方で、やはり医師の充足が、これはもう何て言うのかな、下り坂というか、今度こっちのほうは、そういうものがあるもんだから、今ちょっとお伺いしたわけでありまして、この件につきましては、各議員も取り上げておられますし、これ以上は、またこれからの機会もあると思いますので、この程度のところでとどめますけれども。

ただ、私、何て言うのかな、身の回りで、これはもう言われなくてもわかってるよと。当然、皆さんは同じとことを考えると思うんだけど、お年寄りで2人暮らしで、奥さんが今、出たり入ったり、だんなさんが介護もできない、そういうケースが非常に身の回りに多いんですね。これは数字をきちぎちと当てはめて、どうのこうのという問題じゃなくても、本当にそういうケースが多い。あるいは1人で、メンタルな面ですけども、話し相手もない、これも大変だと、そういうこと。中には1人だから、いついっくかもわからない。心臓欠陥を持ってカプセルに入ったグリセリンというんですか、ああいうものは常に持っていなきゃ危ない、いつ見つかるかわからん。

こういう結構ケースが多いもんですから、各議員が取り上げられたから、具体的にはこれ以上はあれしませんけれども、私自身もこうやって年をとってくると、若いとき、あるいはもっと言えば勢いのあるとき、強いときというのは、あしたがあるさという気持ちがあった。もし、あしたがないければ、あさってがあるさ。ところが年をとってくると、あるいは、ひとり暮らしになりますと、私、本当に実感するんだけど、そういうもんじゃない、あしたが不安なんですね。この辺は釈迦に説法で、みんな同じことを考えていると言えばそれまでだけど、そのことを私は言わせていただ

きたかったんであります。1番目の問題は、これでとどめます。

2番目の、これは今、市長の答弁であれば、私、ちょっと聞きたかったのは、地元の方々の負担というものを、もうちょっと詰めて聞きたかったんだけど、これ以上、市長なのか、あるいは担当なのかわからんけれども、ちょっと難しいと。明らかにはできにくいということであるのかどうか、ちょっとそこをお伺いしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ご質問は駅前のアーケードの負担の関係だというふうに思いますけれども、これについては市長がお答え申し上げましたように、現在、事業主体であります駅前銀座商店街のほうで、規模、内容等を検討しておるところでございます。したがって、現時点ではアーケードの構築についての負担割合は未定であるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

未定であるから、それはいけんとか、いくとかという問題を私が言ってるんじゃないんだけど、これも極めて後継者の問題、その他がある。そういう中での出費といいましょうか、負担でありますから、非常に不安があるんじゃないかなと思うんです、関係者は。あれたしか30軒くらいだと思うんですけれども、そういう方々にとってそういう不安とか、そういうもののやりとり、例えば市なら市ということで、そういうものはないのか、あるのか。その辺、何か明らかにできるものがあるかどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

駅前のアーケードの関係につきましては、新幹線開業を目指した中で、県の無電柱化事業とあわせまして実施をしていきたいということで、かねてから商店街振興組合の皆さん、それから関係いたします商工会議所等の関係機関と連携をして進めておるところでございます。

その中で、いろいろな問題点とか、お話をさせていただいておりますが、今後もそれらのお話、協議を進めながら、事業実施を進めていけるように対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

この問題は各議員が取り上げられたところでありますから、これ以上のことは申しませんけれども、今、課長が言われたように、やはり関係者というものは多大な負担を。自分のとこへ返ってくるんだからいいじゃないかという、そういう考え方もあるかもしれませんが、やはりこれからの社会というか、高齢化社会の中で、大変な思いをしておられる方も結構おるはずなんで、その辺は十分考えて、これは市長に言うべきことか、担当課長に言うべきことか、私はそういうふうに考えておりますので、そこの辺は十分慎重にお願いをしたいと思います。

3番目、貝殻問題ですけれども、市長は今ほども同じようなことを言われたんですけども、9月に私、これを取り上げた、たしかこれは3回目だと思うんですが、これは9月、放射能についてはしっかりと検査をして、ないものについてはともかくとして、簡単に言えば十分その辺は精査しながら対応したいと。そしてその協議というものを、協議の中でという言い方をしておられるんですけども、協議ということの中身は、具体的にはどういうものなのか、ちょっと中身をお教えいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

貝殻につきましては、これは一般廃棄物なんでございますが、柏崎が区域外処理という形になります。区域外処理の場合は自治体間での協議が必要になるということで、そのための協議であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

ということは、その今協議が緒についていないという、そういう段階だと、こういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員は何か勘違いされとるかもしれませんが、向こうから出してくるべきことでございまして、我々が催促したり、お願いするべきものではございませんので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

決して勘違いしているわけじゃありません。やはり今ほども古川議員も取り上げましたけれども、

その放射能そのものに対する純朴なというか恐怖、そういうものを持っておることは、これは事実なんです。

そういう中で、どうなんだろうと思っとるもんだから、これはこっちから言うもんじゃない、向こうから言ってくるもんだよと言えばそれまでだ。だけどそういうものを含めて、このことについてはどうなっておるか。これ知りたいのは純粋な思いで言ってるんだから、そこの辺をもうちょっと親切に答えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は親切に答えておるつもりでございますし、それで排水ではなくて給水だという話、それであっても放射能が心配ですからきちっと検査してください。我々のところも検査します。そういったものが整えばということでございまして、これを今、何も起きてないわけでございますので、我々とすれば同じ自治体間の共助の中でもって、我々は助けたり、助けられたりしていかなくちゃいけないわけでございますし、来れば我々だってやはり最大限、配慮や考慮をしながらやっていかなくちゃいけないと思いますし、しかしながら、どうぞ私のところ何かありますから、皆さん、いろんなもので困ってたらお寄せくださいなんて話は、我々のほうからする気はございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

自治体間のそういったセオリーというか、それはわかります。わかりますし、何も無いもんなら、それは当然、自治体間であろうが何であろうが、助けたり助けられたりするの当たり前なんで、それは私はいいいんですよ。

ただ、残念ながらその辺が明確にないままにといいましょうか、不安を抱えながらいるのも、一般市民の常ではないかと思うもんだから、それを素直な形で出しておるんで、助けたり助けられたりということ、おらはごみは嫌だけど、おまえん家にゴミを持っていくという、そういうことを言ってるんじゃないんで、その辺は十分ご理解をいただきたい。

そういうことで、今のところまだはっきりしないからということであれば、私はやはり市長はそう言うけれども、そういう気持ちでこの問題について対応していくべきだ、あるいはしてもらいたいといいましょうか、その辺だけは強く言わせていただいております。

重ねて言いますが、おまえん家には持っていくけど、おら要らんぞという、そういう論法で私は決して言っているんじゃないんです。少なくとも、そういうものを持つてることが事実だったら、やっぱりその辺は明確に意思表示というものをしながら協議をする、これが協議だと私は思ってる、そういうことを言わせていただきました。

次に、4番目の柵口温泉センターでありますけれども、これは市長は昨日ですけれども、池田議員の質問に対して、こういうことを言ったと私は思うんですが、区長さん方だけではなくて市民一

人一人、大勢の人の意見を聞くバージョン、こういうものを手間暇かけてと、こういうふうに言われたと思うんですけども、これはそれでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その辺のくだりにつきましては地域振興プランにということで、ご理解いただきたいと思っております。温泉センターに限って言っとるわけではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

じゃあ改めてお聞きしますけれども、地域振興プランということは、つまり温泉センターを含めてのもんだから、当然、温泉センターの扱いというものも、今のこの私が読み上げたことの範疇に入ると、こういうふうを考えていいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

温泉センターにつきましては、権現荘と一体化する中で対応させていただきたいというのが、我々の考えであるということをお答えさせていただきましたし、そしてその権現荘をやはり地域振興プランの中に取り入れて、みんなで地域資源として活用することに対しても、やぶさかでないというお話をさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

ちょっと変えますけども、12月23日に権現荘と温泉センターに関する懇談会というのが計画されておりますけれども、これは何をどういうふうに懇談したいのか。ここにも書いてあるけれども、もうちょっと具体的に思うところをお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えさせていただきます。

議員もご案内のように12月23日に権現荘、それから温泉センターの今後について懇談をさせ

ていただきたいということで、ご案内をさせてもらっております。

権現荘、温泉センター、それからあそこに都市交流促進センターというものがあるんですけども、その施設の活用の仕方というものを、この議会並びに上南地区の会長さん方に説明をさせてもらっております。

具体的に言うと、きのう少し池田議員にお話をさせてもらったように指定管理等の状況、それからリニューアルの状況、それから上南地区の活性化のプランの状況、そこら辺の中を踏まえた中で、権現荘のほうに入浴機能については一本化させていただけないかという考え方を提示させてもらってあるわけですが、そこら辺に対する意見交換をさせていただきたいということで、その日程をセットさせてもらったものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

23日は、そういう今所長が言われたことで進めたいということですが、別なちょっと聞き方、市としてはどういうメンバーで、そこへ対応することになっているんですか、今の時点でわかれば。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えさせていただきます。

総務部長、それから私、それと担当係長、それと担当職員で、対応させていただきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

この問題、ちょっとさっき同じことを市長に言ったけれども、いろんなバージョンを応用しながら聞いていきたいと、こういうふうにあります、市長は。単に権現荘、温泉センターの、これは問題ではないと私は考えておるんで、例えばこの上南地区といいますけれども、きのうのうかなかも言葉が出てきましたけれども、いわゆるオール能生の問題でもあり、さらには全市、全市民の福祉、保健の向上というような観点で、これは取り組んでいかなきゃならない。まさに、この施設というのは、特に温泉センターに限って言えば、非常にこれまでの経緯からいっても福祉だ、あるいは地域のよりどころだというものには、非常に大事な施設として育ってきたわけです。これを権現荘の中に包含してやればそれでいいんだという考えは、いささか私にとっていえば納得ができません。

また、きのうでしたか、おとといでしたか、あの話の中にも、例えば地区運動教室などといって、いわゆる一ところに固まらないで、市民の健康、あるいは福祉、保健、そういったものをやろうという動きも一方ではあるわけですね。であれば、やはり私はここは先ほども言ったし、何回もこれ

は取り上げておるけれども、オール能生、あるいは全市民という視点から、取り上げていくべきであろうと私はずっと主張し続けておるわけでありませう。

それで、たしかこれはきのうでしたか、一定の方向性が出るまで今の状態で続けていきたいと、こういうことも、これたしか市長の言葉であったと思うんだけど、もう1回確認するけど、どうですか。市長がそう言った、言わないですか。

議長（古畑浩一君）

勝手に会話しないでくださいよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

失礼しました。私の思い違いです。では、久保田所長ですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

昨日、私のほうから、その辺のご答弁をさせていただいたと思いますので、私のほうから再度ご答弁をさせていただきたいと思ひます。

昨日言いましたように、リニューアル、それから指定管理の問題、それから上南地区の活性化プラン、その辺のことが一定の方向が出るまでは、今の温泉センターにつきましては現状のまま継続していきたいという考えでいます。

きのうもお話しましたように、権現荘のリニューアルにつきましては、やはり民間の活力といひますが、民間ノウハウを活用した中で計画していきたいと思ひていますし、その中に指定管理というものも入ってくると思ひています。その全体のプランニングといひますが、考え方の中に、やはり上南地区の活性化というものも包含した中で、一定の方向が出る中で、それまでの間、今の温泉センターという形を継続していきたいというふうに考えております。

議長（古畑浩一君）

質問の途中であります、あらかじめお諮りをいたします。

質問時間が午後5時を回ることが予想されますことから、本日の会議時間を延長いたしたいと思ひます。

これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、会議時間を延長することと決しました。

それでは吉岡議員、そのまま一般質問を続けてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

ということは、一定の方向が出るまでは今の状態を続けていく。ということは、23日の懇談会ですか、そういうものなどを経た上でということにもなりましょうし、私が主張しているようなオール能生、あるいは糸魚川全体のということも含まれて、そういうことをおっしゃっているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

温泉センターも含めてということでご理解をいただきたいんですが、権現荘につきましては上南地区、さらには能生地域、大きく言えば糸魚川市の活性化に向けての大きな課題というふうに我々は認識をしております。

今後、権現荘を中心としたシャルマンスキー場を含む上南地域の活性化のためには、上南地区の皆さんがどう行動するか、また、行政とどう一体となって地域活性化に向けていくかが、大きなポイントであるというふうに我々は認識しております。今後、このことを基本といたしまして、上南地区の皆さんと協議をしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

しつこいようですが、これは私の見てる限りでは、非常に能生という地区だけじゃない、全市的に、ああ、もったいないことをやっちゃ困るなということをお肌で感じておるもんだから、これだけこだわるんだけれども、非常に微妙な言い回しを市長をはじめ皆さんしておられるけれども、この問題については、私は基本的には市民の福祉だ、保健だという、そういうものをある意味では身近なところで、足元で、実現していく1つのテストケースみたいなもんだと私は思っておるんで、その辺は十分この点について留意をいただきたいと思っております。当面、23日に懇談会がありますけれども、これで終わりとするわけじゃないんでしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

今、総務部長のほうからもご答弁させていただきましたように、上南地域の活性化プラン、それについては23日の懇談会が終わることによって成り立つものではありませんので、能生地域ということもありますけども、上南地域の皆さんと一緒にその辺の、あそこにある3施設、それから地域の資源、そこら辺のものをいかにして生かしていくかということですね、上南地域の皆さんと一緒に検討する中で、方向性を見出していきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

皆さんの言ってることもまるきりわからんわけじゃない。私が我を張っているわけではないんだけれども、何回も言うように足元で一番大事なところは、この辺なんだという思いがあるもんだから、本当ならば23日であろうが、これからのところで市長、あるいは副市長も出席して、じかにそういう話を聞くべきだと。これは首縄をつけるわけにもいかんのですから、こう言うにとどめますけれども、非常にこれは限定された地域だけの問題じゃない。この辺をひとつ考えていただきたい。

次に、5番目の糸魚川医療生活協同組合姫川病院です。

これは今、こういう言い方をしているのかどうかわからんけれども、今までのあれで言わせていただきますけれども、これはこの間の総文の委員会でも、この問題をようやくにして取り上げたけれども、あの席でも、私もその中にいたんだけど、何か変だけれども言ってみようもない。どうしてみようもないというような空気になっておったように私は受けとめておったんだけど、どうなんだろうかね。

これ確かに市の所有物ではないと、今、市長も言われた。まさにそうなんだ。しかし、それだけでいいのか。そう言いながら市長もいろいろ考えておるかもしれんけれども、ただ、今そこでは言えないのかもからんけれども、その辺どうなんですか。それから同じこと、建物ばかりじゃない、土地の問題もそうです。どう考えたっておかしい。

じゃあ別の聞き方するけども、どうですか、これ言えるかどうかわからんけれども、地権者というのは何人あって、何坪あって、どれだけの地代を今までもらって、逆に固定資産税はどれぐらいかと。そういうのは明らかにできるものが、できないものが、あえて聞きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

お答えいたします。

先般の常任委員会の資料の中にも記載がございますが、借地部分の地権者は法人が1、個人が6、計7人の方でございます。面積は借地部分、登記簿面積で合計しますと1万5,657平方メートル、単純平均で7で割返しますと、お1人当たり2,237平方メートルということでございます。借地料を幾ら受け取っていたかという部分については、市では承知しておりません。固定資産税の額というご質問でございますが、個々の固定資産税の額は、これは課税上の守秘義務がございますので、公の場で申し上げることはできませんが、すぐ近くに標準値というものがございまして、その価格が公開されておりますので、それをもとに70%の評価額の率を掛け、さらに税額1.4%を掛けますと、1平方メートル当たりの固定資産税額が170円ということになりますので、先ほど申し上げました平均の面積に掛け合わせますと、およそ固定資産税額の平均が38万円程度となるというふうに思われます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

これは私が言ってることは絶対で、市長をはじめ皆さんがいかんよという意味じゃないんですけども、今、課長も言われたけれども、どう考えてもおかしいんですよ。あれで言えば確かに市長も言うとおりにんですよ。

だけど例えば今言ったように固定資産税として30万円くらい、私もちょっといろいろ聞いてみたんですけども、30万円くらい払っておる。そうすると、これまで100万円くらい入っていた、これは入金なんだから、なくなったから、それはしょうがないじゃないかと言うかしらんけど、そういう状態がずっと今続いとるわけですね。それで果たしていいんだらうかと言われても、言われるほうも困ると言うかもしらんけれども、どうなんですかね、これは。市長もそう言われたって困るだらうけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えしたいわけですが、なかなか答えにくい問題であります。病院ではないにしろ、そういった事柄はほかにも起きておるわけでありまして、同じ状態であるわけでありまして、特別そこだけという見方というのは、どう考えればいいのか。私はやはり1回目の答弁でお答えしたように、税の公平性という中で対応させていただいてるわけでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

そういう押し問答を幾らやってもしょうがないんですけども、私もあなたはけしからんよというほどまで強くも言えないような気もするし、公平性とかいろいろあればね。ただ、何らかの形でこれは市長はじめ皆さん、知恵を絞ってと言ったらいいのか、温情を尽くしながら、これは対応していくべきだと思います。今ここで結論をどうのこうのと言ったって、これはどだい難しい問題だと思います。議会の中でも取り上げられるように、これからなっていくだろうと私は思いますので、その辺をこれからお互いに留意しながらひとつやりましょう。

6番目のパブリックコメントであります。

これ私、前回も取り上げたんだけど、ストレートに言うと公民館問題、ちょっと今ごろになって言うのはあれなんだけれども、私、この寄せられた意見、これを見てびっくりしたのは、まず2つある。1つは、基本方針案に対して、どちらかという批判的な、前にも取り上げたんだけど66人、人数にして。そのうち38人が私のあれでは、どちらかという、これはちょっと急ぐなよとか、そういうことを言ってる。いいじゃないか、やれというのが18くらいなんですよ。こ

れは、いや、そういったって市は市で1つの方針だというんだからしょうがない、それでいくよといえ、これもけしからんと言えない。その辺どうなんですか、市長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

15番（吉岡静夫君）

いや、おれは市長に聞いてるんだ。

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長、どうぞ。

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

パブリックコメントにつきましては、公民館体制の見直し基本方針で、たくさんの方々から貴重なご意見を賜りました。今、吉岡議員は人数のことを申し上げられましたが、私たちは数ではなくて、その内容につきまして、ご意見1つ1つ反映するもの、検討課題とするもの、それを整理をいたしまして、行政の施策に反映をしたものでございます。

その際に、パブリックコメントだけではなくて、地区を訪問しまして説明会を33地区、2回開催をしておりますし、それ以外にも生涯学習推進委員会、館長会議、そういうところでもたくさんの、多岐にわたるご意見をいただいております。そういうものをパブリックコメントを含めて総合的に判断をして、実施、スタートさせていただいたものでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

確かに優等生的には、そのとおりなんでしょう。ただ、ちょっと気になるのは、これを私、つぶさに読んでみたら、答申を尊重し、早期に実現せよ、こういう同じ文面が15通あるんですね、これはどういうことなの。同じものなんだ、これ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

吉岡議員がご指摘のとおり、66名の方々からいただいた中には、趣旨としましては同じようなご意見もあったように思います。ただ、ご意見をいただいた方のお気持ちとしましては、市民の公民館体制等の検討委員会の方々が、1年を超える期間にわたって検討されて、答申をいただきました。その趣旨、その過程を尊重いただきたいということで、ご意見をいただいたものと受けとめております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

そのあったように思うじゃなくて、これはどうやってるんだって。あんた方だってみんな、市長をはじめ読んでいると思う。同じ文、ほとんどほぼ同じ、これはやはり考えなきゃならん。

それは確かに1人1人考えがあるんだから、いや、いい、やれ、やれというのもあっていいけれども、これパブコメはそういう出てきかたでいいのかなと思うんだけど、どうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は、いろいろな事業でパブリックコメントをさせていただいております。しかし、パブリックコメント1つで、対応するということではいけないわけであろうと思っております。いろいろなやはり想定するものの中で判断をさせていただいたわけございまして、パブリックコメントもその1つであり、そして、その中で今、議員ご指摘いただいとるんだらうと思とるわけでありまして、それを同じ考えだからおかしいというの、また私はおかしいんじゃないかと思うわけでありまして、やはりそういった意見というのは尊重せないかんわけでありまして、

そういう中で、今言ったように検討した中においてはいろんな思いがあるだろうという、そういうのもやっぱり我々はいろいろ配慮を、そういったものを伺いながら判断をさせていただいたわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡議員。

15番（吉岡静夫君）

誤解してもらっちゃ困るのは、私はそういう今市長が言った総論的なことを否定はしてない。むしろパブリックコメントもあり、あるいは総合的な調整の仕方もありやるんだけど、ただ、私は読まればわかる。全く同じ言葉が15通もまさに連なる、これは一体何だらうなと思うのは、これは常じゃないですか。それは考え方が違うのはいいですよ、人それぞれ。いや、いいよ、いいよって、さっきも同じことを言ったけど、だけど同じだと何だと、こう思っとうましの、これは常じゃないかということ、きょうはここでとどめますけれども、パブリックコメントっていうのはどうなのかなと。

否定はしませんよ、私は、いろんな考えがあるのは、今、市長、あなたも言うように。否定はしないんだ。しないけれども、同じものがついたら、あんた、ちょっとうーんと思っちゃうじゃないですか。

時間もそろそろ来ますようですからあれしますけど、私はきょう6点とらえて、ほんの走りよったけれども、そのうち5点というものは、いわゆる加害者と被害者がいた場合は被害者側、強い者と弱い者は弱いほうの側、勢いのあるものとないものであれば、ないもの。

これはたしか河野謙三さんも、昔、言っていたんですが、数の多い側と少ない側があれば、少なくとも少ない側につくと。これは私は行政のやはり基本だと思う。なかなかこれは難しいと思います。数合わせに走る場合は、その反対になるんだから、しかし、これは当然言わずもがな、市長のように経験いろいろあるわけだから、そんなことを言われても言わずもがなと言うかしらんけれども、このことを言わせていただきます。今後の行政に大きく期待をさせていただきたいと、こう思っております。

少々辛口でありました。終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、吉岡議員の質問が終わりました。

これにて一般質問、全日程を終結いたします。

連日、長時間、皆様ご苦労さまでございました。

本日はこれにて散会いたします。

午後5時12分 散会

+

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+